



圓光大師傳

十九廿





法然上人行状畫圖第十九

月輪の禪問の御歸依あさかづらわしうは北政所も  
ねたしく御信伏ありく。念佛往生此事候御  
つひありありの御返事云。うしこはて申上御  
りて、御念佛申させたりし御候なることよに  
うれしく候へまことに往生の行の念佛の目出た  
き事にて候なり。そのゆへ念佛の跡隨の本願の  
行なれり候なり。餘れ行はたまき真言止觀れた。





ま行たりといへども。弥陀の本願にあはれ。又念佛の  
釋迦に付属し行たり。餘行いよとて。定散兩  
門の目出たま行れりといへども。釋尊にこれを付  
屬し。然るに。又念佛の六方に諸佛の證誠は行  
たり。餘の行いたるに顯密事理を具せんこと  
なき。行なりと申せども。諸佛にこれを證誠し  
然るに。これゆへに。やうく乃行ねむ。然るに。  
往生の事よはひんくよ念佛すくも。

奉にて行たり。まに往生にあらん人の  
申すやうに。餘乃真言止觀の行よ。たはらる人れ  
屋とまよ。れは。念ふよ。念ふ念佛の。あれと  
申す。まに念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。  
本願よ。あはれ。餘行をま。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。  
付属に。何れ。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。  
證誠よ。あはれ。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。念ふ。  
弥陀の本願よ。まよ。釋尊に付属に。念ふ。念ふ。念ふ。



證誠よまごひてをうけるもさうはたごひを  
を免くおまごひゆへはよま念佛の行をほと  
めて往生をいひるゆへと申にてはたごひ  
惠心僧都は往生要集り。往生の業りは  
念佛をたゆまぬと申せむこは心なり。いまは  
餘行はためて一向よ念佛よあせむ。念佛よ  
ごまごひて一向専修は念佛の目出たき事よ  
はたごひ。其は三昧發得の善導は觀經疏よ

ええとらり。又雙卷經よ。一向専念無量壽佛と  
いひ。一向は言ひ二向三向よ對してはごまごひ  
行をたゆまぬしてまごひのそく心なり。君達なご  
御いのりたまはるる念佛のめたくは。往生要  
集よも餘行は中よ念佛とくまごひたごひとえ  
たり。又傳教大師乃七難消滅は法よも念佛は  
はごまごひと申えては。おんを現世後生は  
御はごまごひと申えては。ごまごひは



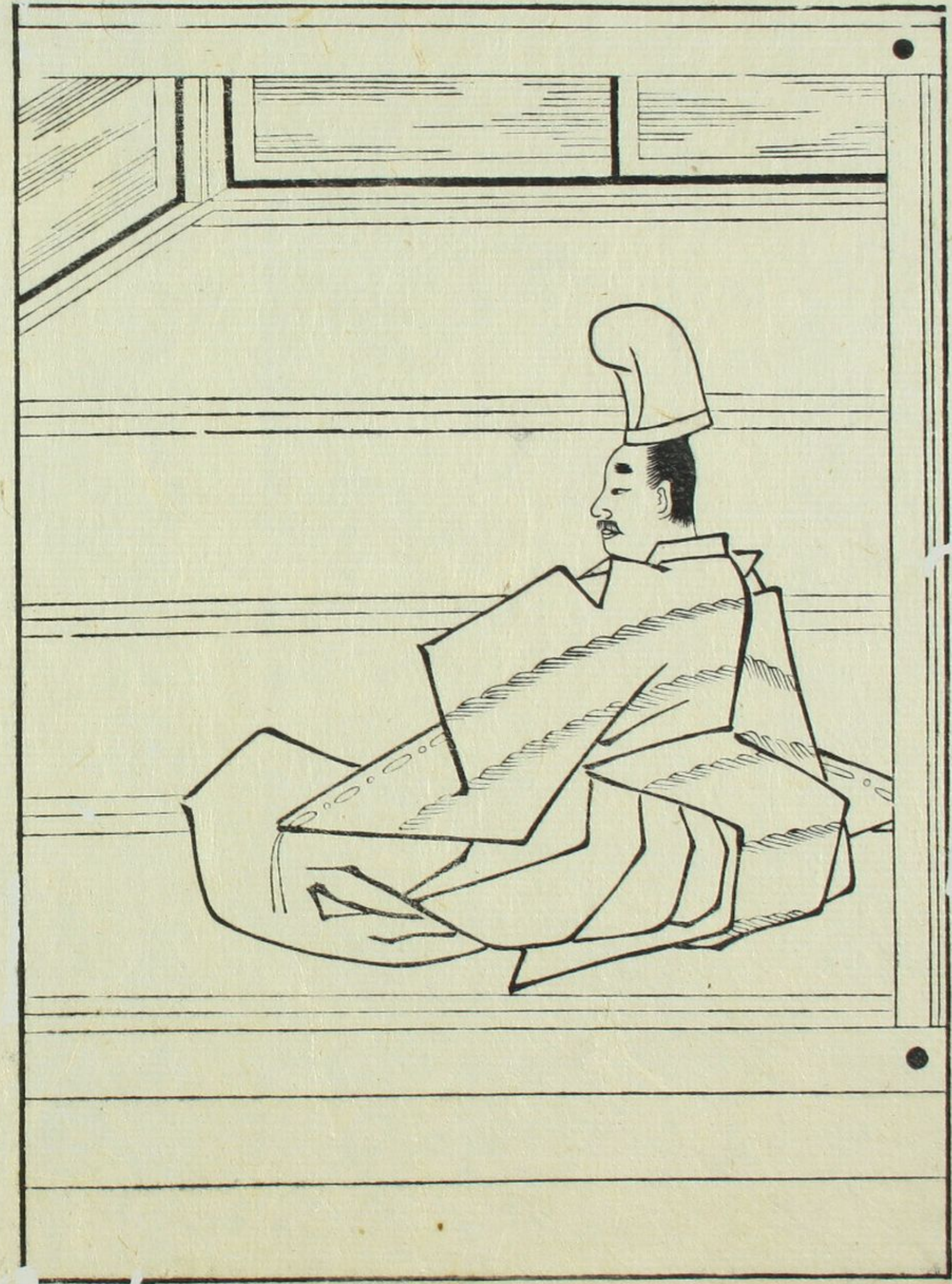


二七

十ノ三

たゞ一向專修に但念佛者にならざるはまじく  
略抄 已上 ことよらて。專修念佛の心は  
ぬる心たうりも家とたふす。







阿波舟といふ陰陽師上人よ給仕して念佛す。  
あわさる。或時上人かれ浴をさうしてあれ阿波舟  
が申念佛と源宣が申念佛といひまじらばさる。やど  
聖光房よたづみ信るれ多に心中に記まらる。  
しひあわさる。いづも。海へばをうけ給らる。  
たづみに所存を治定せんが事あり。いづれは治  
らに御念佛といひしづく。承べきと申はれらる。まじら  
上人ゆゑ御氣色うらわて。されい日来浄土の

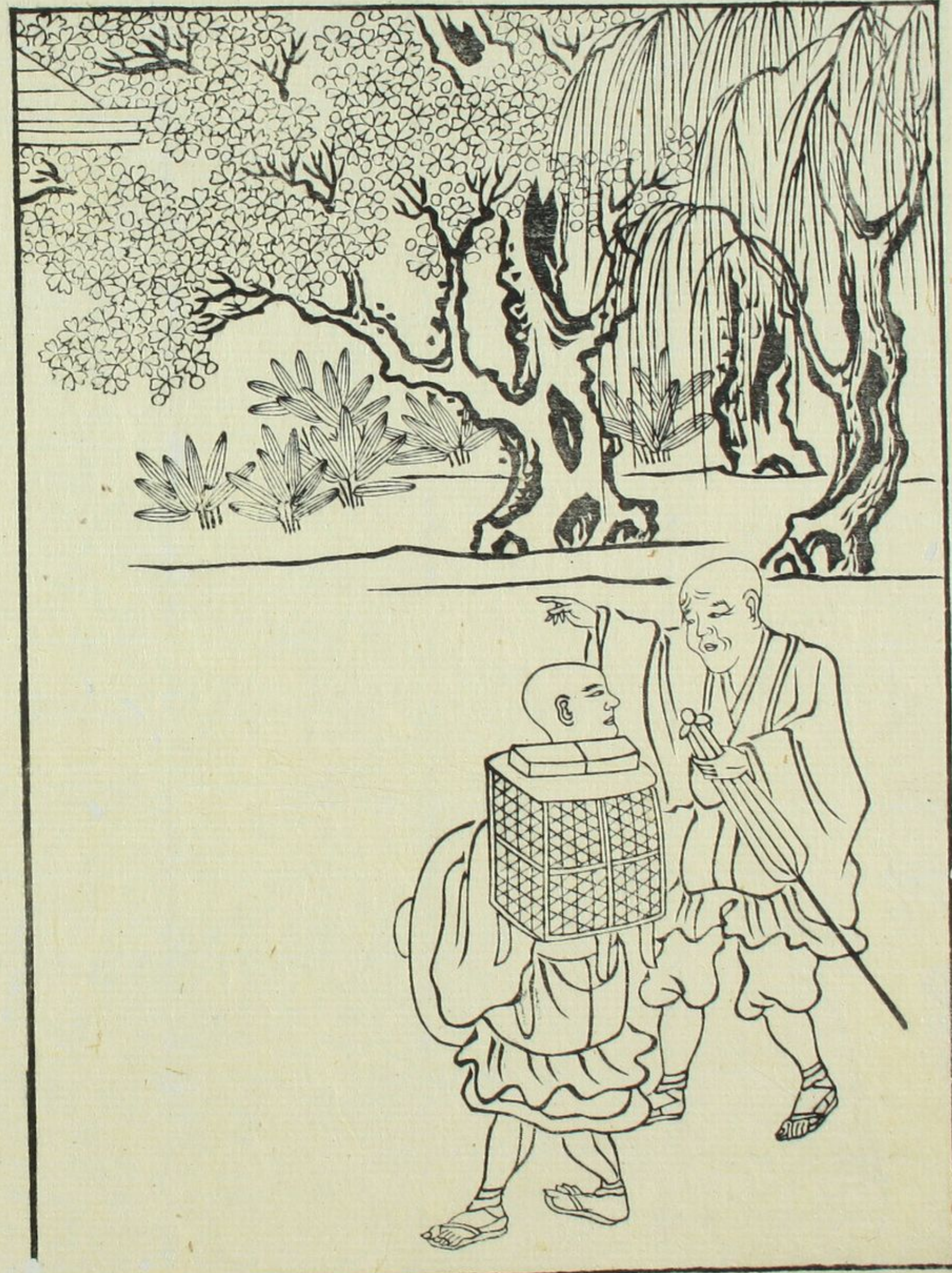
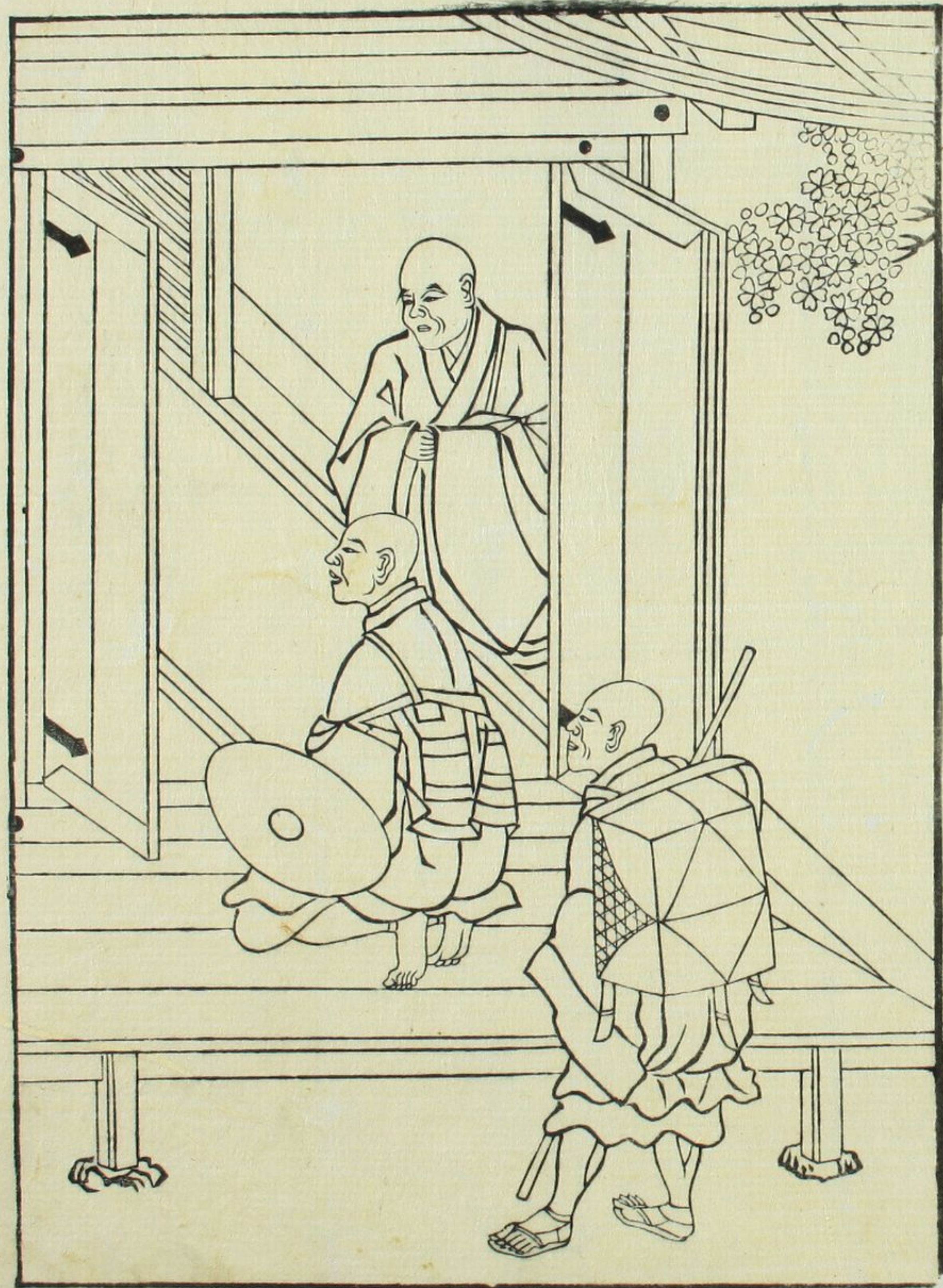
法門といひたに。いづれも。あれ阿波舟も  
佛とつけ給へとなり。ひて南無阿弥陀佛と  
申と。源宣も佛たると。給へとなり。ひて南無阿  
弥陀佛と。これ申せ。更り差別なれ給らる。位  
ら社をまじら。もとより存ずる所あり。宗義の  
肝心いませ。いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
感涙をさよ。いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
数をまじら。いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。



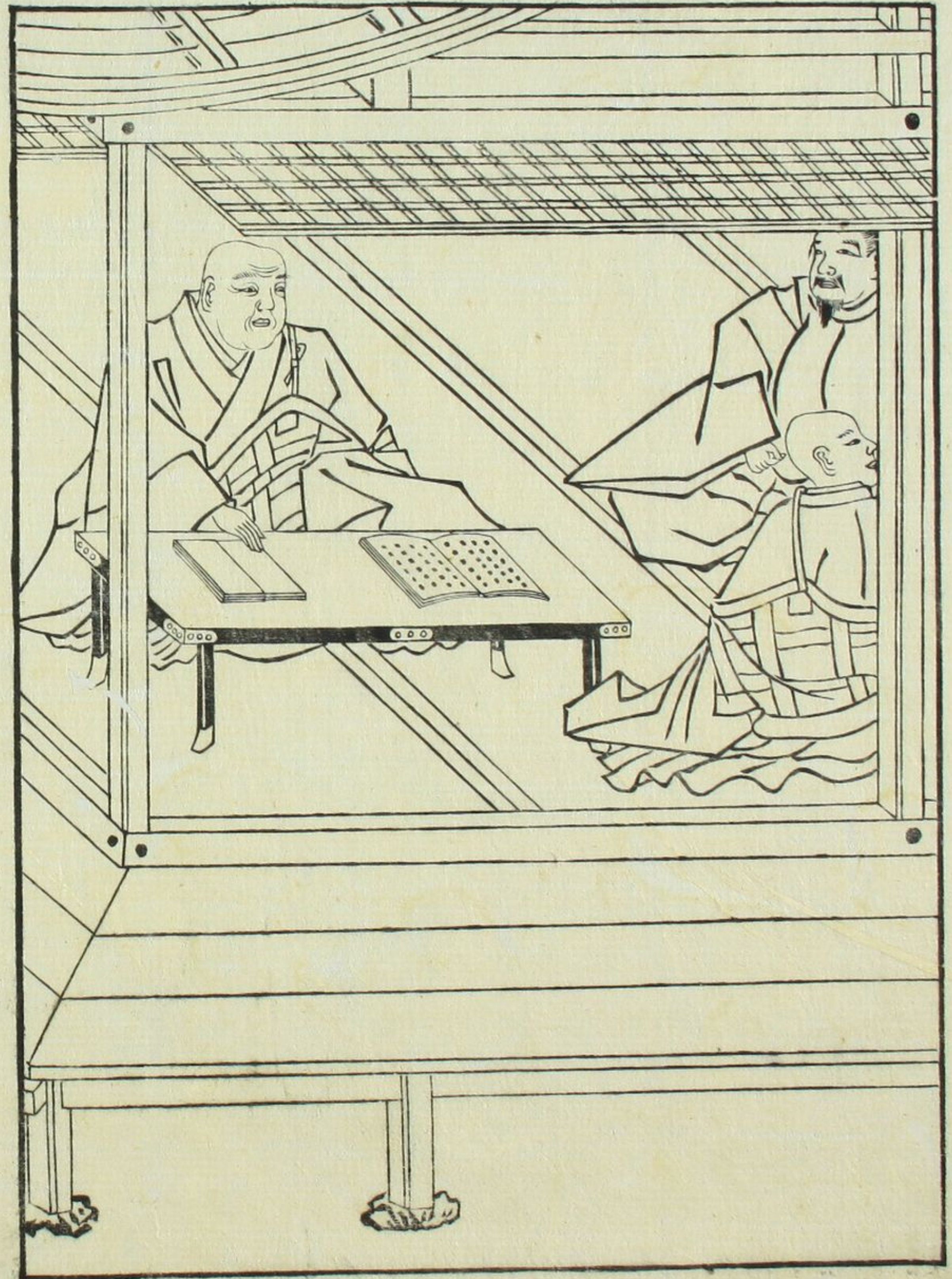
阿波介。百八の念珠を二連つらりして念佛  
をす。そのゆゑを人あつひに我わがの弟子ていしいふ。其  
上下かみより我わがの緒ついではるまじやと。一連つらりして念  
佛を申まをす。一連つらりしてハ數かずをさうりてはるまじの所ところ  
數かずは弟子ていしにさまだ。緒ついで屋やとほりくつつ我わがの世よと  
申まをす。我わがの上かみへき強つよてたは事こともつが心こころり  
そよめる事ことにい才さい覚かくついてくるなる。阿波介あはけま  
りて性しょう鈍どんよと我わがの心こころをさうかたさすもの。往生じやうじやうの

大事心だいじしんよとておのゆへよ。わが事ことをも案あん一  
おの事ことなら。ほいしてはるまじの心こころをさうかたさすもの。  
はるまじの心こころ









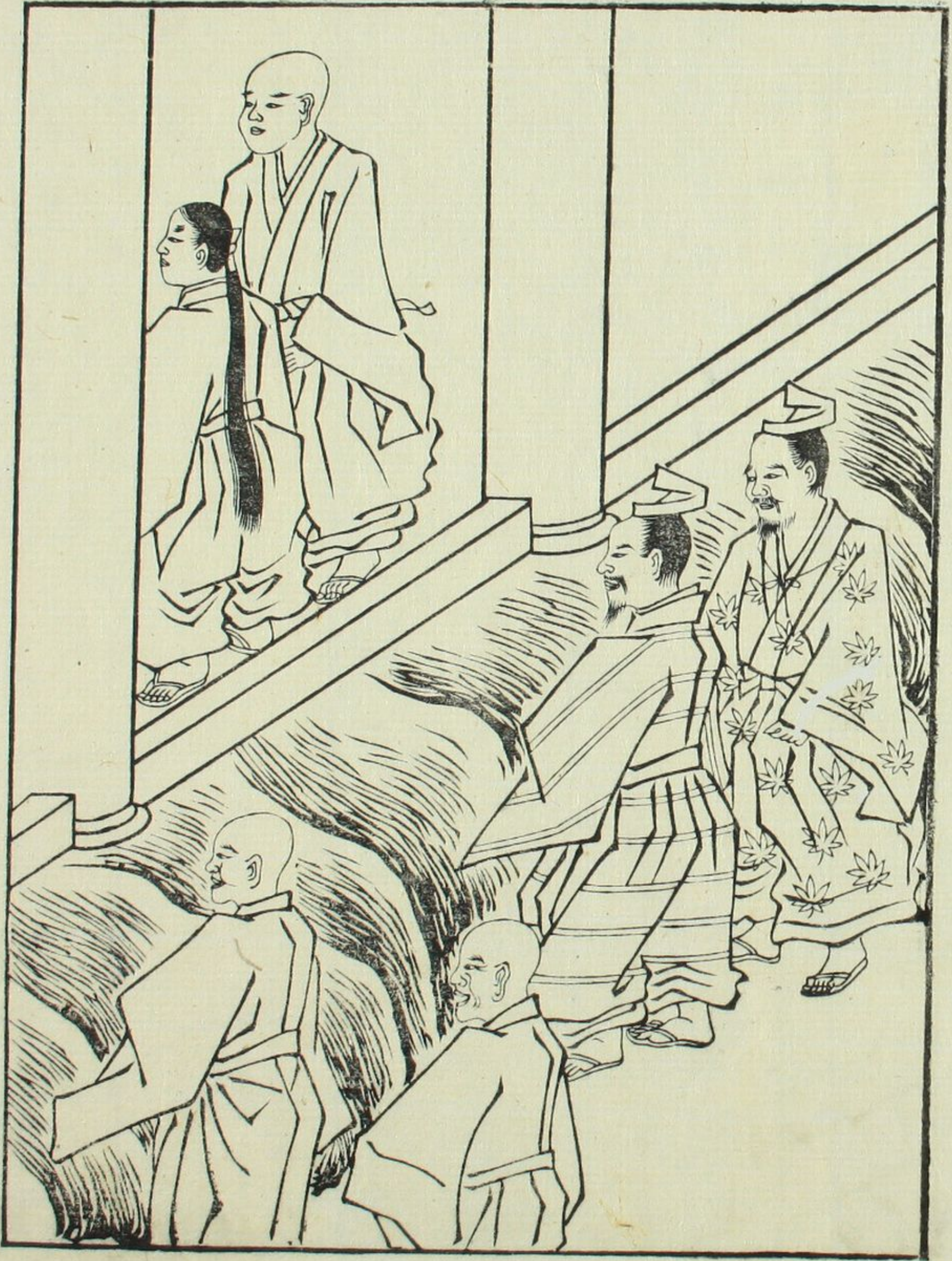


上人のついでにのびりて浄土の法門を学す住山  
者ありま。示す。いふ。いふ。此教の大意は得たり。  
あつた。いふ。信心。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
信心。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
寶。祈請。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
う。僧。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
あつた。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
と。東大寺。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
棟。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

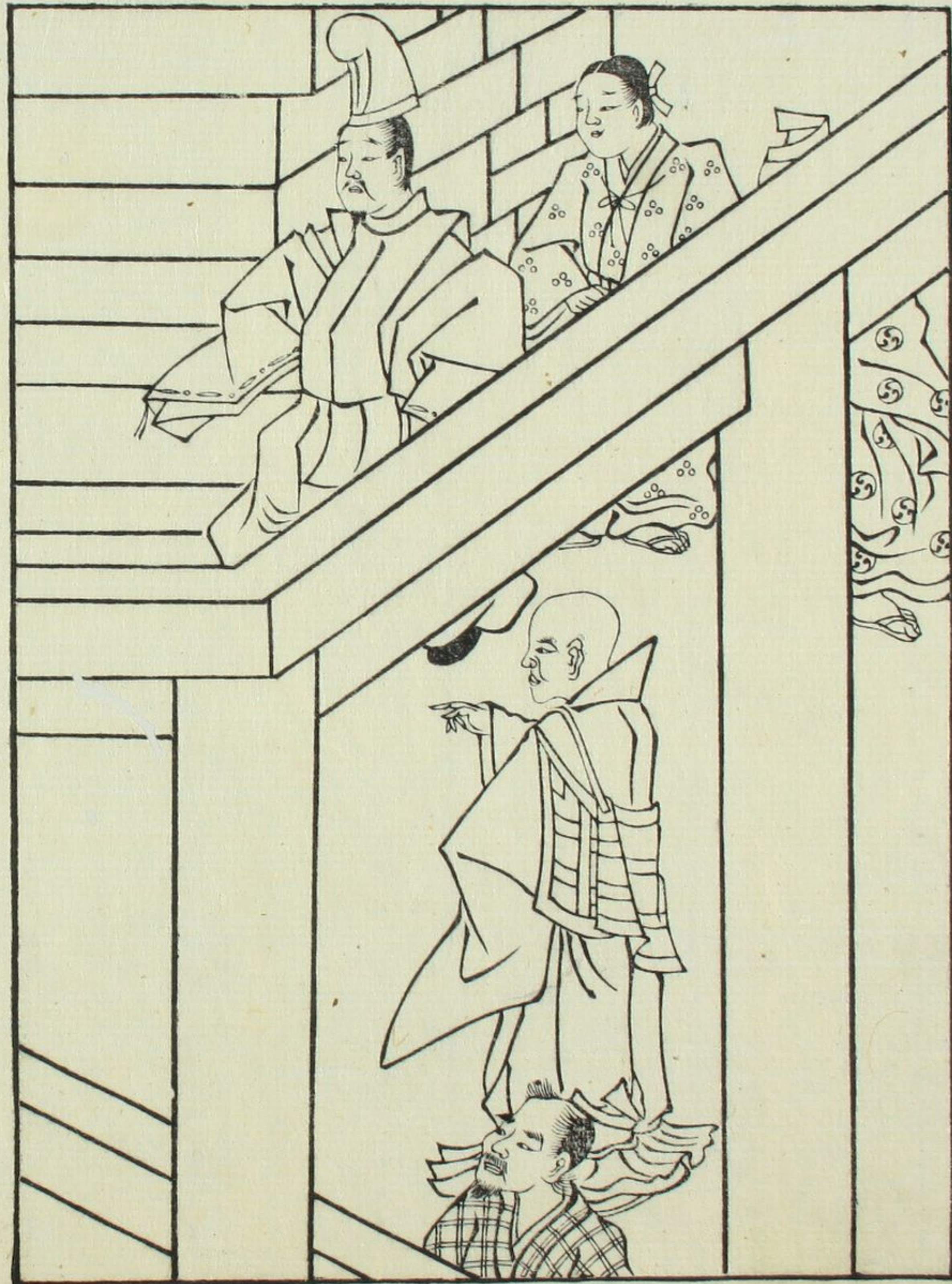
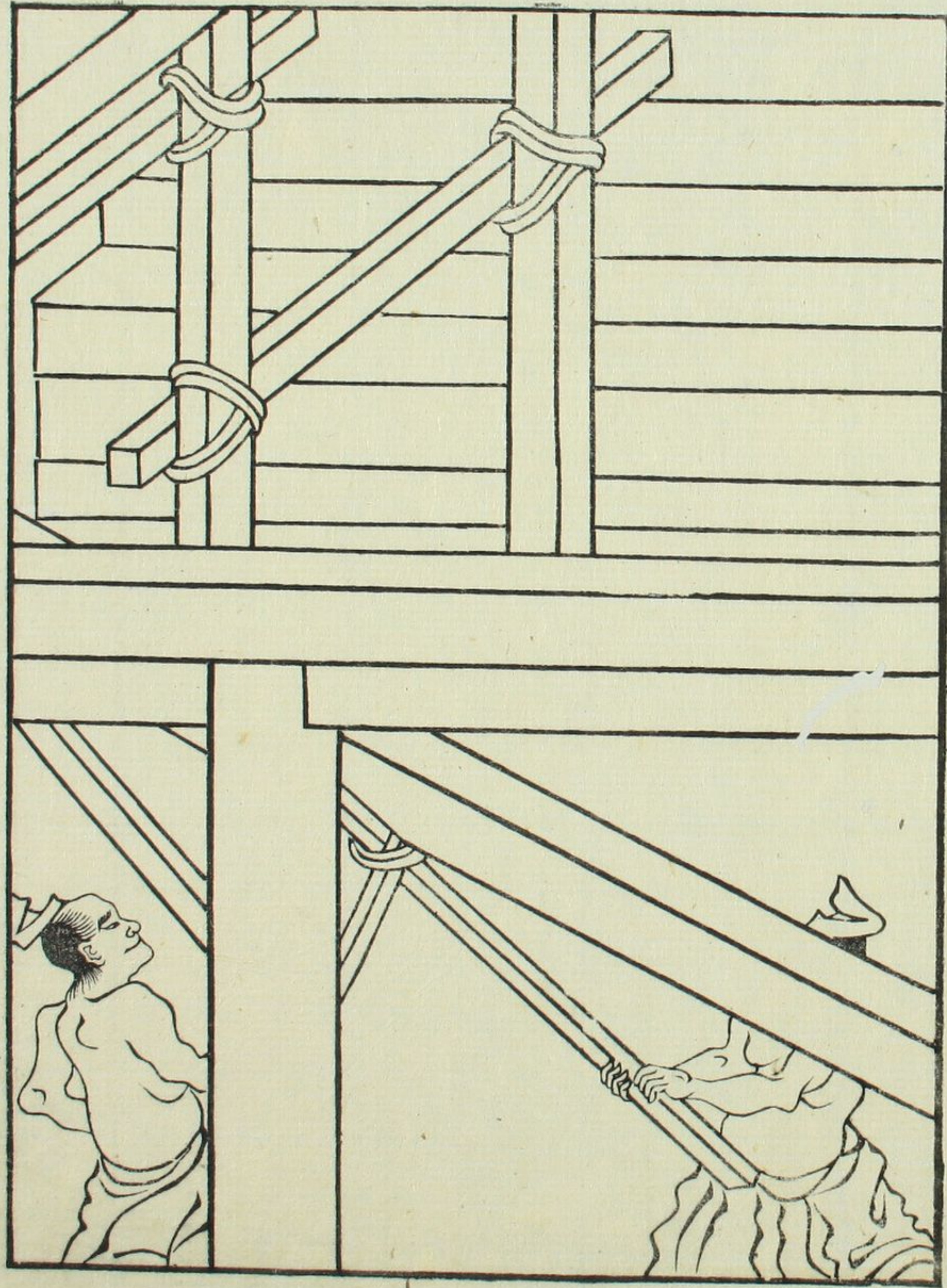
あつた。目。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
あ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
程。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
匠。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
れ。善巧。方便。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
あ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。



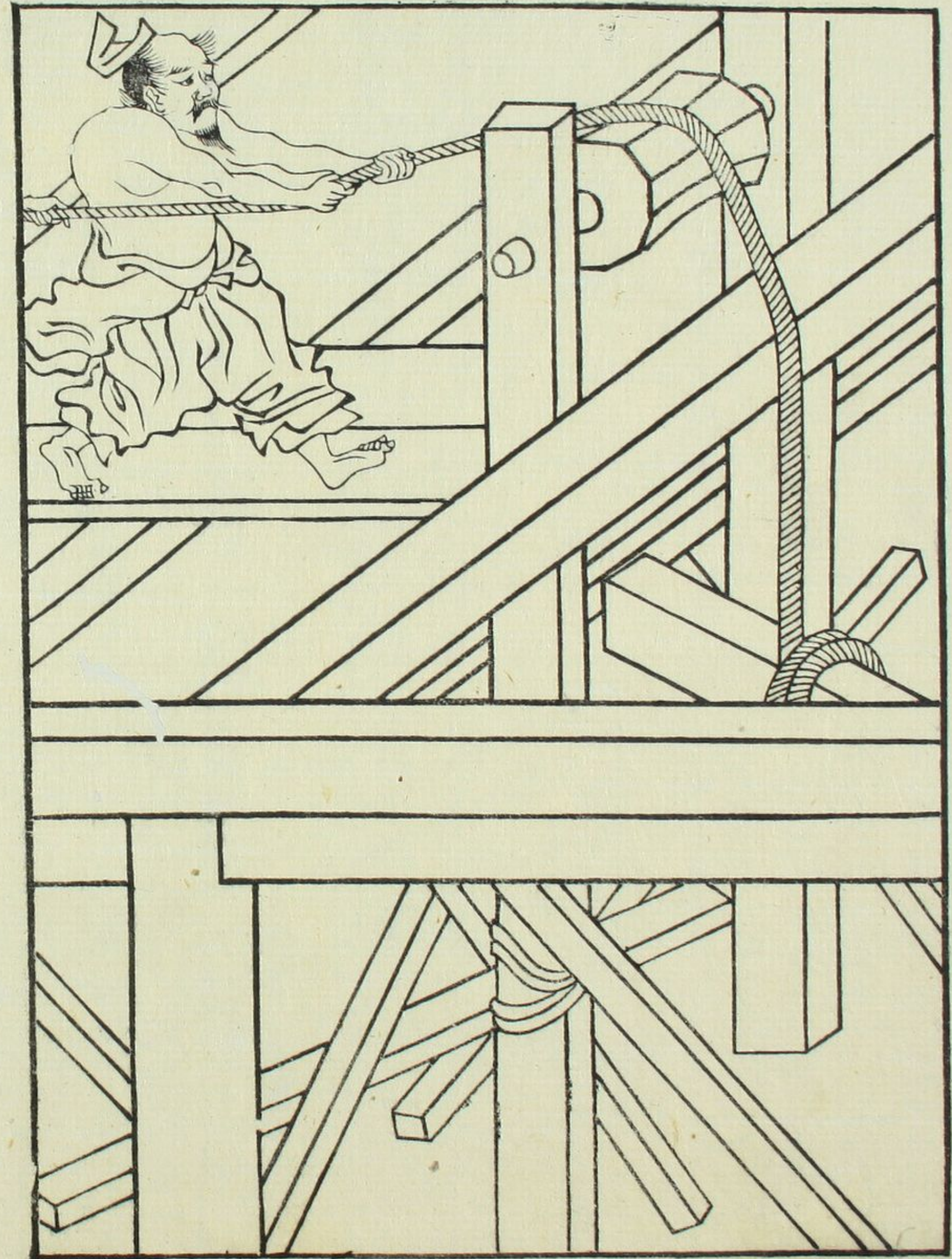
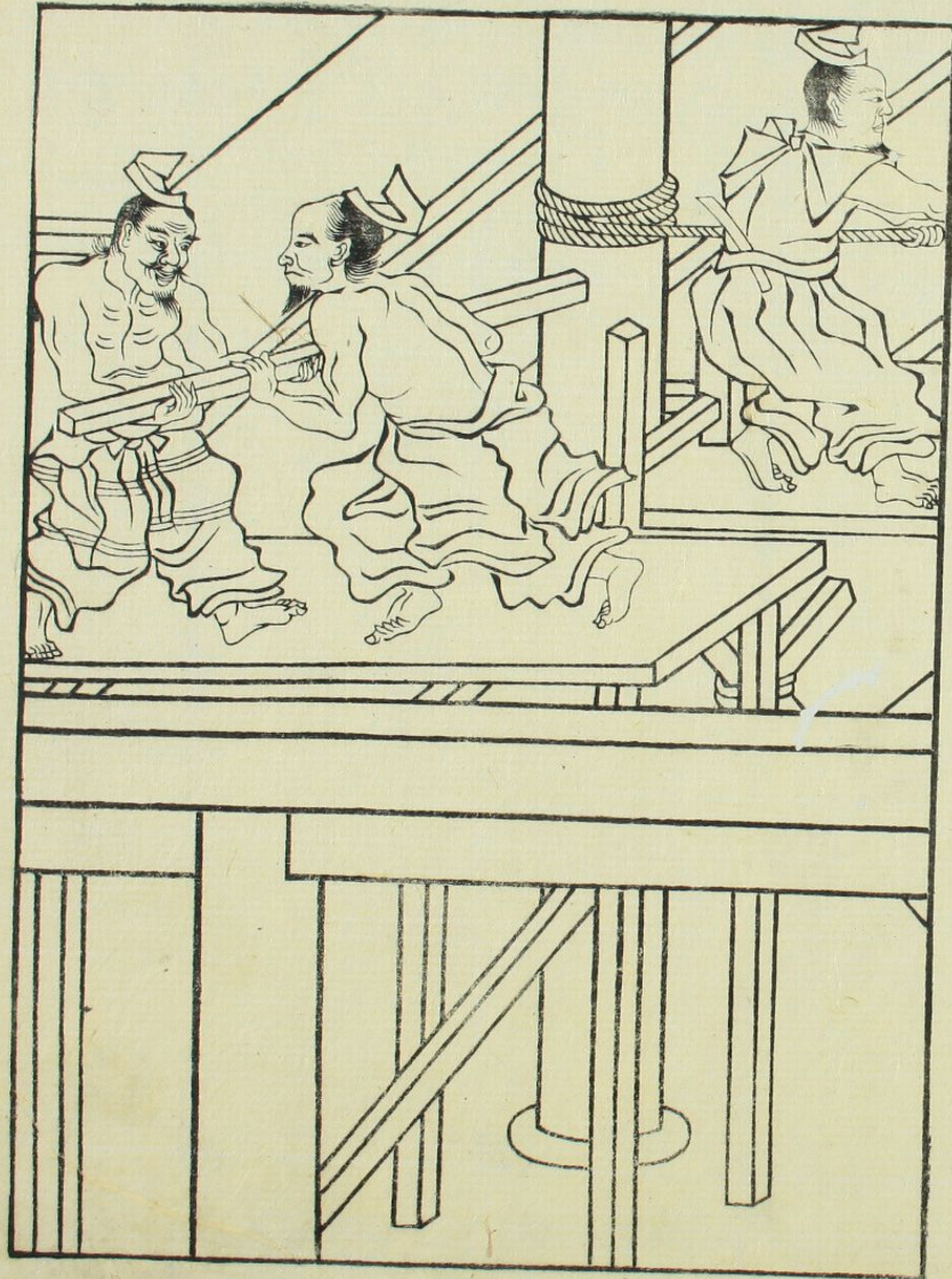
日比祈請の志よりなりとありき。其後兩三年  
 を通てなん種々靈瑞を現して往生候とげ  
 たる。受教と發心とは各別なるゆへに習学す  
 りい發心をばれども境界れ縁を見て信心を  
 たへたるなり。人なきくに浄土れ法門をき  
 念佛の行をたれとも信心いするれはる人  
 人いとも福んるあり心成けてはらひに思惟し  
 まし三寶よいのち申通ちなりとぞ信れなる。













尼聖如房あまのこうぼういふく上人の化導けだうよ歸きしひらへり  
 念佛を修しゆとふ勞らうれ事あわなむ。臨終りんじゆうらうまきて  
 いま一度上人をえんてまつらむと申すれん。  
 このより紙上人よ申に。おれ御別行ごりつぎやうの程たわ  
 られん。御文にてこの節にて侍はらひとまじたり。の  
 状じやう云。聖如房あまのこうぼうの事よ返えんてあまのしを修へ至  
 る例れいたぬぬの事。大事にたしうけ給はれ候へん  
 だも。いま一度見まひせしうをうらまへの

御念佛の事えねがつれくを思まひし候  
 づきよばつては心よのけはひは高しう候  
 へん。まよふてあまのしを修へし候へん  
 まいらせ候へ。左右たうけ給はれまひら候へ  
 見まひし候へ。心よのけはひは高しう候へ  
 いてあまのしを修へし候へ。心よのけはひは高しう候へ  
 たし事れ候へ。やうにせよ。事にて候へ。心よ  
 をい退くてもまひら。心よのけはひは高しう候へ。



詮してこの世れ見集るてもかくても流るん。  
うらひを執るる南といふもたら流ぬるたま  
こそと南りる川魚に身よそを流し流我を  
人をもてなく流し流るる川魚に身よそを  
流すぞよそを思流るる川魚に身よそを  
りれまよそを思流るる川魚に身よそを  
いふほどうら流るる川魚に身よそを  
佛の國よそを思流るる川魚に身よそを

いふほどはまよそを思流るる川魚に身よそを  
たぐひよ未来れ化導をもたよそを思流るる川魚に身よそを  
返こそ詮よそを思流るる川魚に身よそを  
流るる返こそ本願をこら流るる川魚に身よそを  
念えよたよ心れく一聲もたよ阿弥陀佛と  
申せよ我身たよ心れく一聲もたよ阿弥陀佛と  
願力よよらて一定往生するぞとたよ心れく  
よそを思流るる川魚に身よそを







しつをばつていれさせたりしもばつていしふに  
佛の御ちひをたのまといせと申たりしも  
ばつていれさせたりし人の往生をばつていし  
たけんよふちて。一念もさういふあまひ  
どいぬこころい。善導和尚れよこころ  
うに信りし事にて候なり。至申くあまひ  
とらたりいあま候なんたうぬん人  
とも尼女房なりともつしに申へ候ん人

念佛申うせてまうせたりしあまていし  
心をばつていれさせたりし。一向よ九丈の善知  
識を思食すて。佛を善知識よたのまといせ  
ばせ給へく候。乃至やうに念佛をうたひたりて申  
候ん人。思候まひん。我身は山のため  
このま。まやうに思候ばつていし。いれ候  
事候く。うき給候ま。いし。ま。う。ち。一。念。を  
のこら候。ま。い。その往生れにたをけり



かみんと廻向まげ—もくせはれんを我だかまて  
くおほ—あやうはあまのまもりせはれ  
ぶも—とくせに命—もくせはれ—  
こまは—とくせに命—もくせはれ—  
もも—たうではれまたのまおほ—あまのまもり  
にてはれおふ—の申にてはれ—とくせ—  
ははれ—あまのまもり—もくせはれ—  
事—に—はれ—あまのまもり—あまのまもり—

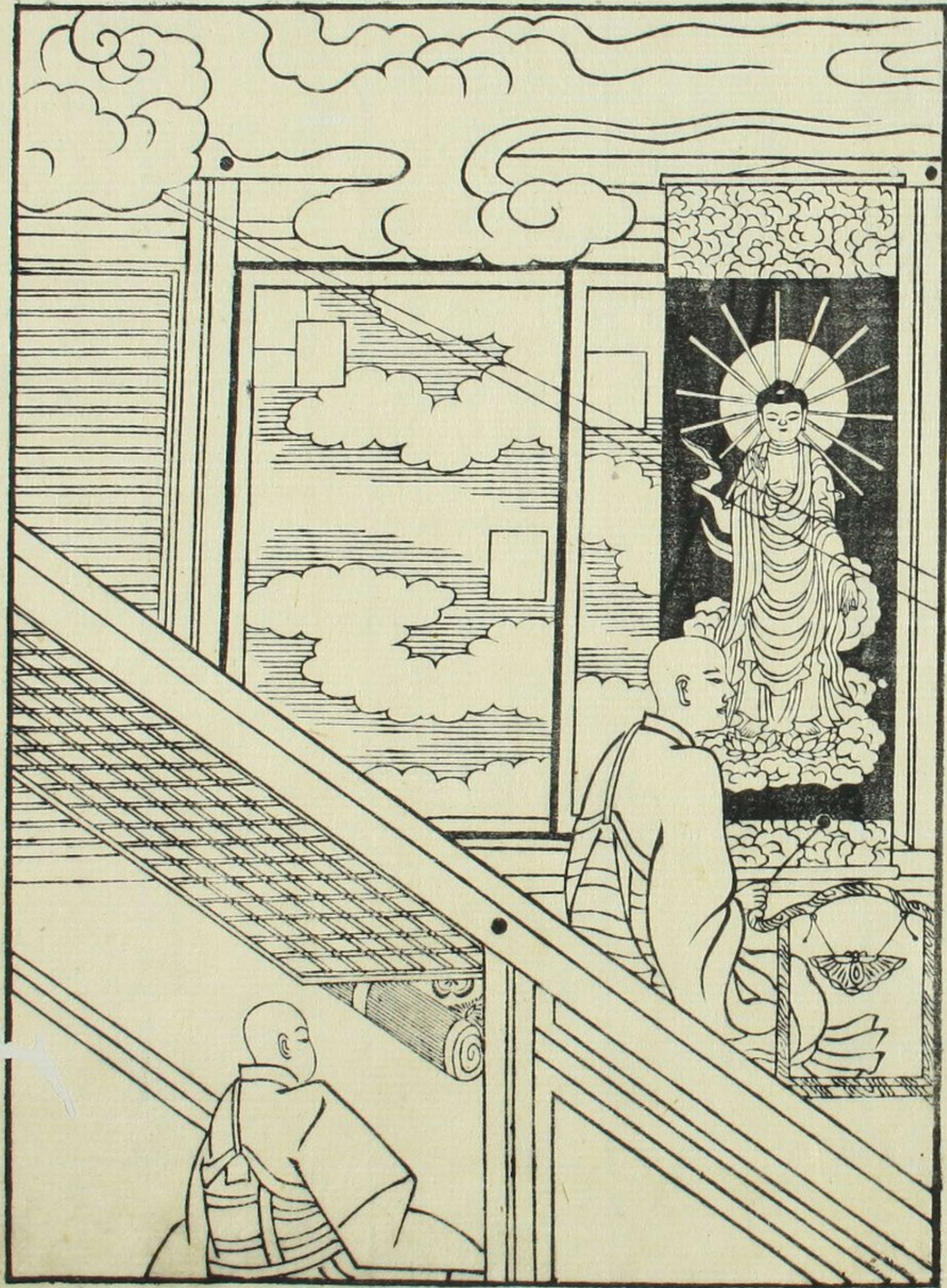
い—と—思—は—る—事—に—は—れ—ん—を—我—だ—か—ま—て  
ら—く—お—ほ—す—ま—も—り—と—く—せ—は—れ—  
よ—く—も—又—た—も—く—せ—は—れ—  
は—た—ら—し—あ—ま—の—ま—も—り—と—く—せ—は—れ—  
浄—土—よ—も—あ—ま—の—ま—も—り—と—く—せ—は—れ—  
た—く—た—が—え—は—れ—あ—ま—の—ま—も—り—と—く—せ—は—れ—  
い—ま—一—交—れ—と—思—申—は—れ—事—に—も—か—く—て—も—は—れ—  
た—ら—し—我—を—く—し—よ—く—た—ら—し—お—ほ—す—ま—も—り—と—く—せ—は—れ—



いゝとぬく縁ふに心をもちまの御念佛をま  
らせませたりとましてごいんくまらんか  
おぼしめしめく候乃まじきよよんか  
たりとましたるに事にて候くこと事  
たぐく候へく候えう候らわくはしきまらせ  
は務たりともしめく候うけ給候まらな  
よかぬくあり候よにほえてなりかへく又  
申候なり。已上  
略抄これ御文の趣をうくあり

そのて念佛をこたはらばしてたかたにあらで  
あつたは生かたげよきとされ候。





Small vertical text or seal in the bottom right corner of the right page.



仁和寺よすまける尼上人よあがりて申やう。さう  
う千部れ法華経ほふ読よむるまじやう。宿願しゆくがん乃  
事ありて七百部いすくよまことなるれまじやう  
るまじやうとぞよまける結ぬのらわ乃功こういふに  
してをへはへしもねほえ侍しはとたげま  
申されしとぞいふたまはるに身みよいざてたく  
七百部まじやうとぞ強つよくするまじやうのらわをまじ  
一向念佛いっしやうねんぶつよたまたま進しんへしとぞ念佛の功能くわんごうを

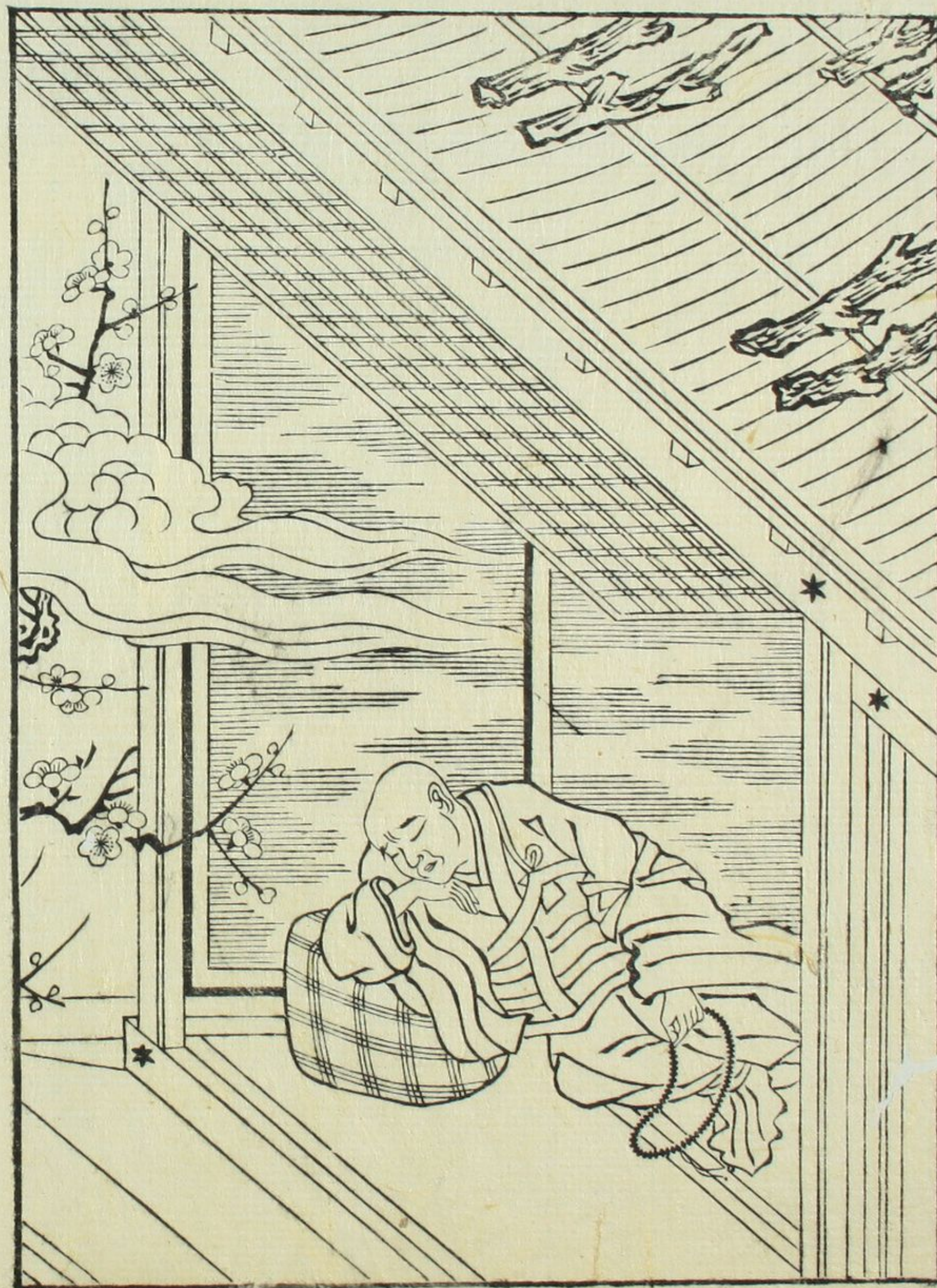
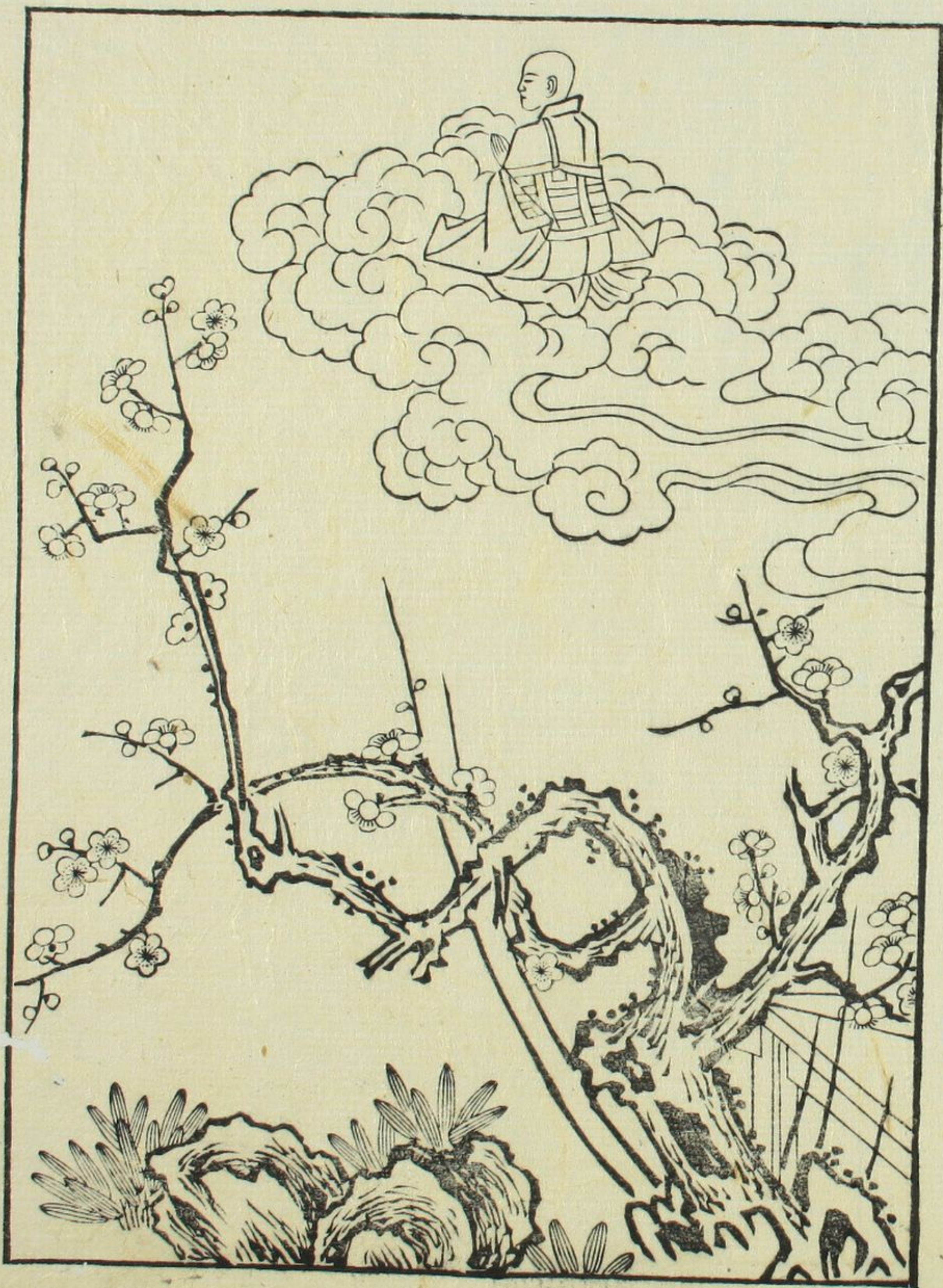
とまよふせむまじやうとぞのらわ法華経ほふ讀よ誦じゆを  
とぞまじやう。一向專稱いっしやうせんじゆとぞとぞ月をへてすてよ  
往生じやうじやうとぞげりなむ。丹後國志樂たんごこくしらく乃のん  
孫勒寺そんりやくじといぬ山寺やまじれ一和尚いちわうたりなる僧そう乃  
じつ天台山てんたいざんの学徒がくどのらわは遁世とんせいして  
上人じやうじんの弟子でしとなりて一向いっしやう念佛ねんぶつして五條ごじやう  
坊門ぼうもん富小路とみこうじよすまじやうとぞまじやうに  
うに紫雲しゆんとぞびたり申に一人の尼にあり。



もつては法然上人の  
をいへよ。りて念佛して。只今すくに極樂へ  
往生し候わるといひ。我の仁和寺に候ひの尼  
たよりと申と。人々も愛さぬや。ぞ上人のたり  
あし。らむる九條なるふり。来て。妄想してや候  
らん。う。家ゆめ候と申も。我は。上今も  
案。い。な。ま。ひ。て。は。る。人。あ。ら。ん。と。や。ぞ。仁和寺  
使。を。つ。い。ま。我。ん。と。す。こ。に。日。々。我。よ。ら。我。ん。次。の

あ。い。た。こ。の。海。向。は。い。こ。い。た。よ。奉。り。候。と  
も。い。は。ぬ。と。た。ち。か。ら。我。ん。の。い。の。あ。い  
し。い。た。つ。日。申。よ。が。尼。公。の。昨日。午。尅。よ  
ら。も。往生。し。候。ぬ。と。ぞ。答。申。な。る。あり。我。は。た。う  
と。た。れ。申。し。て。ぞ。あ。ら。ん。







法然上人行状畫圖第二十

河内國くわいのくにより天野あまのの四郎しやうらうとて強盜かうたう乃張本ちやうほんなるものありたり。人をこころし財ざいをすむじら紙業しごふとて世によにはとらるる。たけく後上人じやうじんの化導けだう小歸せうきし出家しゆけして教阿弥陀佛きやうあまたつたふつと号なづけたり。是こゝに上人じやうじんのいふに、あつて教訓きやうくんをきかむる。或時あるとき夜半よぢゆうよりかきた。上人じやうじんおきあつていひて、いそよ念佛ねんぶつし、強かうくはむにがき事ことありき。里さと教阿弥陀



佛うらまへりおれたりもれは上人をぞてめ  
孫ぬ孫いり孫へるはよてそれ夜もあけはらわ  
教阿弥陀佛心乃うらにいと心えぬりてこれと  
にまひらまじもぞ孫申ふをよらまじやまに  
かり孫へてのち又集いあよ上人の持佛堂ふ  
たりません教阿弥陀佛いたやゆに候て  
申きらひ無縁のまれよて在京うたひひく  
侍きい相模國河村と申とくあよあひまわ

たもまわ侍をまじのてまわらむら侍わ  
らしたけ侍ぬまひ又見集よらんまを  
を候まより無智の者あま侍き甚深の  
法門をうけ孫候てまその甲斐あるべしも  
覚侍り候まを詮をまらま変定往生仕ぬま  
御一言をうけ孫りて生涯乃いりてそ  
まへ侍んと上人の孫くまら念佛よ甚深の  
義といふまを念佛申そのいり候り候



生とわらざるがかり也。いづれも智者学生あり  
とて宗まうよあはれ難人義をいづくはたしむ  
いづくていぬべきまゆめく甚深れ義ある人と  
ゆづく思はるるゆづく念佛やすま行たれん  
申人いおふきれども往生するまのすくれまは  
変定往生の故實を志すぬゆへなり。去月よ  
又人をぬけては房と源空とたゞ二人ありに  
夜まづらに志のしるに起居て念佛す

をい。は房いまこのれなりかと信らるれん。寢耳よ  
はやれんと兼供まこと申もれいそまことわ  
ぐて変定往生の念佛よ。虚假けとてまざる心よて  
申念佛が往生いぬなり。変定往生せんは  
たりのまかざる心なくしてまの心よて申  
る。いぬひたまはれまのめ。まの畜生  
たすむひしてかまのまのけまも。朋同行ハ  
いぬよをよまんとその外つひになれん。妻子



眷属なれども。東西を辨ふる程れ者よなりぬま。  
そまがちとせんよ。わらけり。わらむ。わらむ。わらむ。  
人の中にすまんよ。その心たも。九使あり。今。今。  
と。魚と親も。疎も。貴も。賤も。人よ。すま。た。る。  
往生れ。ある。は。た。り。を。我。も。め。た。り。を。心。を。れ。  
う。て。順。次。れ。往。生。後。に。け。り。我。が。た。り。を。と。り。と。り。  
獨居を。れ。け。り。い。て。人。目。を。な。り。は。な。り。ぬ。  
して。ま。よ。の。心。よ。て。念。佛。よ。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。

人よ。よ。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。  
あ。ん。の。の。夜。よ。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。  
た。り。人。時。の。の。び。や。に。起。居。く。百。遍。よ。り。も。十。  
遍。よ。り。も。多。少。の。り。よ。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。  
の。こ。ろ。か。の。の。心。を。た。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。  
波。定。往。生。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。  
一。も。夜。よ。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。  
暮。よ。り。も。人。の。ま。よ。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。お。の。り。



孫よりこれと申す。而詮<sup>ちりせん</sup>決定往生を孫  
ふまことの念佛申さんするがうぬ心孫いた  
らへ<sup>ねすひ</sup>盗人あちて人の財を思ひけりぬとまん  
たのふ心<sup>こころ</sup>底にちかきれを面<sup>なまて</sup>にうりたまる  
横よまてぬてかまてあちけたる色を人  
にんえうとたのらんうら。そのよふさうに  
人ちこまきひんがさうかづいぬたなり  
決定往生せんとするはまぬれとんあち

あつまち居しん申ふても念佛申いら候今よ  
又て候しと。よらうとまきれわ其時の  
念佛ハ佛よりほうんちれうこま候まらま  
佛ちせ候ん。往生なんぞ疑うんと信ちれまら  
教阿弥佛申はく。決定往生の法門こそ  
心得候ぬま。とてよらうまきれわ。此位を  
うけ候うらうまら。は。これの往生ハ  
あぶなく候まら。但これ位のうらうて人の



まへよて念珠をくり口返ししごとか此事あり  
あしく休庵とんと上人の存りてそ我又解韻  
たり念佛其本意ハ常念哉註し所はまゝ念と  
相續せよとこそすれたも世間  
此人をえるよ。たれ人た我も豪憶あり  
わつれて憶病の者よたりぬまゝ身れためく  
るがまゝた。卿のいふは我もなをを我て  
迎う。豪者よたりぬまゝ。念返ししよ

庵まゝにた敵れまゝを逃かすまゝいたるは  
へたあれもまゝををまゝとひとまゝりも  
勢がまゝのこゝ。こまがやうに真偽乃二類  
あり地躰いつたり性ありてがさる心あるもの  
身のおもあよ要なき。聊の事をもかぬは  
えりまゝのちり。りしより尚もれ心あちて  
虚言でぬまゝの。聊れ矯饒して。身れを  
ねやまゝそれ益ありまゝ事なれど。身の利



養をいふもつゆ底よはしとありしやう  
えんばつたなほ。いふれ本性ようけてしむれ  
あつとくろねわ。それよその心乃その。往  
生せんとなひて念佛よ歸したんいふ成ふい  
成人のまへよて申さもさうさるる心ある  
よりをれん。れ真實心の念佛よて。変定往  
生よつたならたうんぞ。これをいふらん。又地身ハ  
いふらむ性よて。世間はよははくく。いふら

不實れ事ありし。知識よあひく  
發心して。往生せんとなふ心ぬくありぬれん。  
念と相續せんとなふていふれるあひれん  
人のまへよても。無想よひて申さうらん者。  
これ又真實心の念佛なれん。変定往生よべき  
ならもて。制限よあは。いまいぬらんハ。  
三心の中に一心をけぬきん。往生せよと釋し  
給へん。三心れ中の真實心。人よて發がたなれハ。



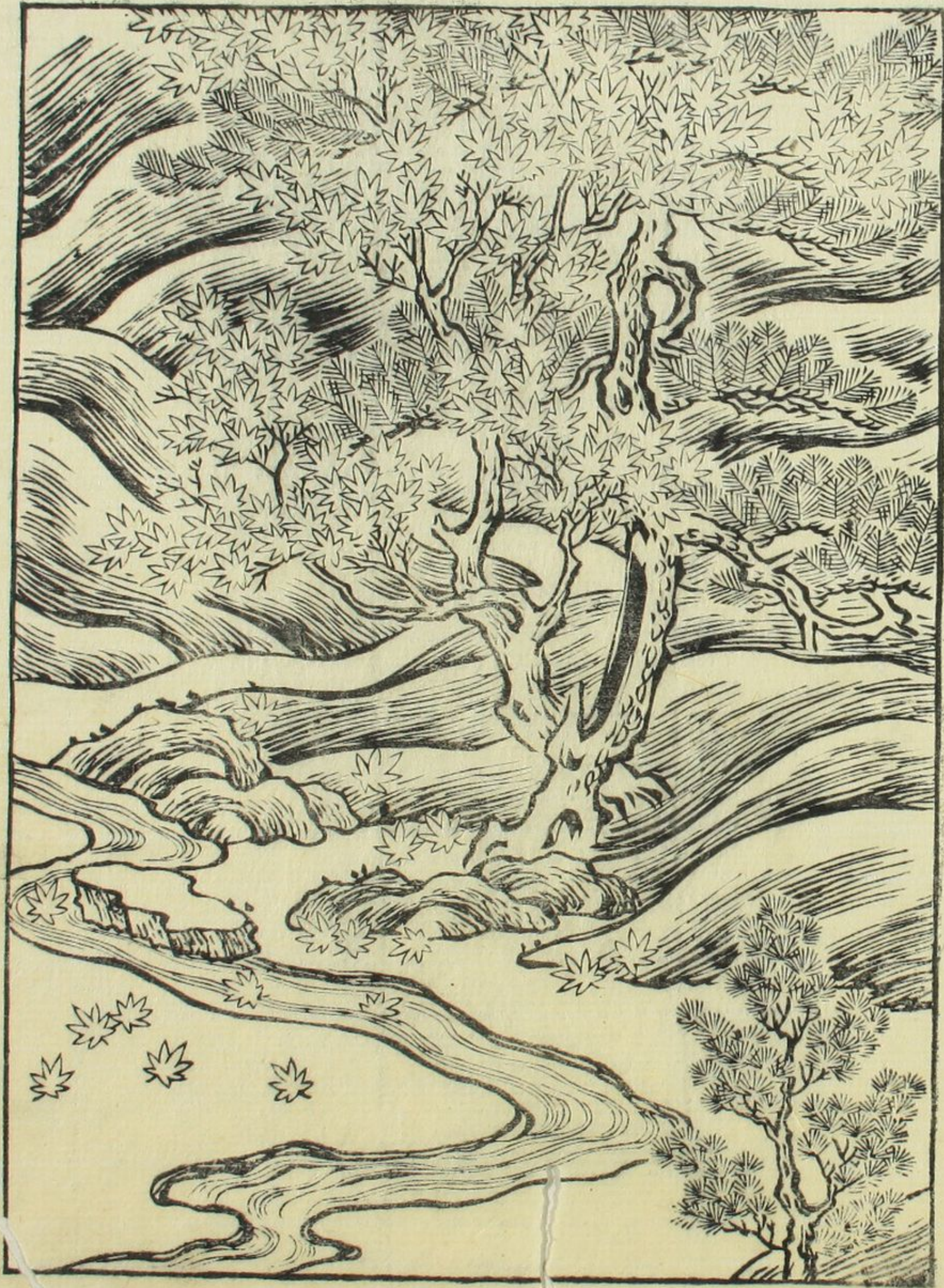




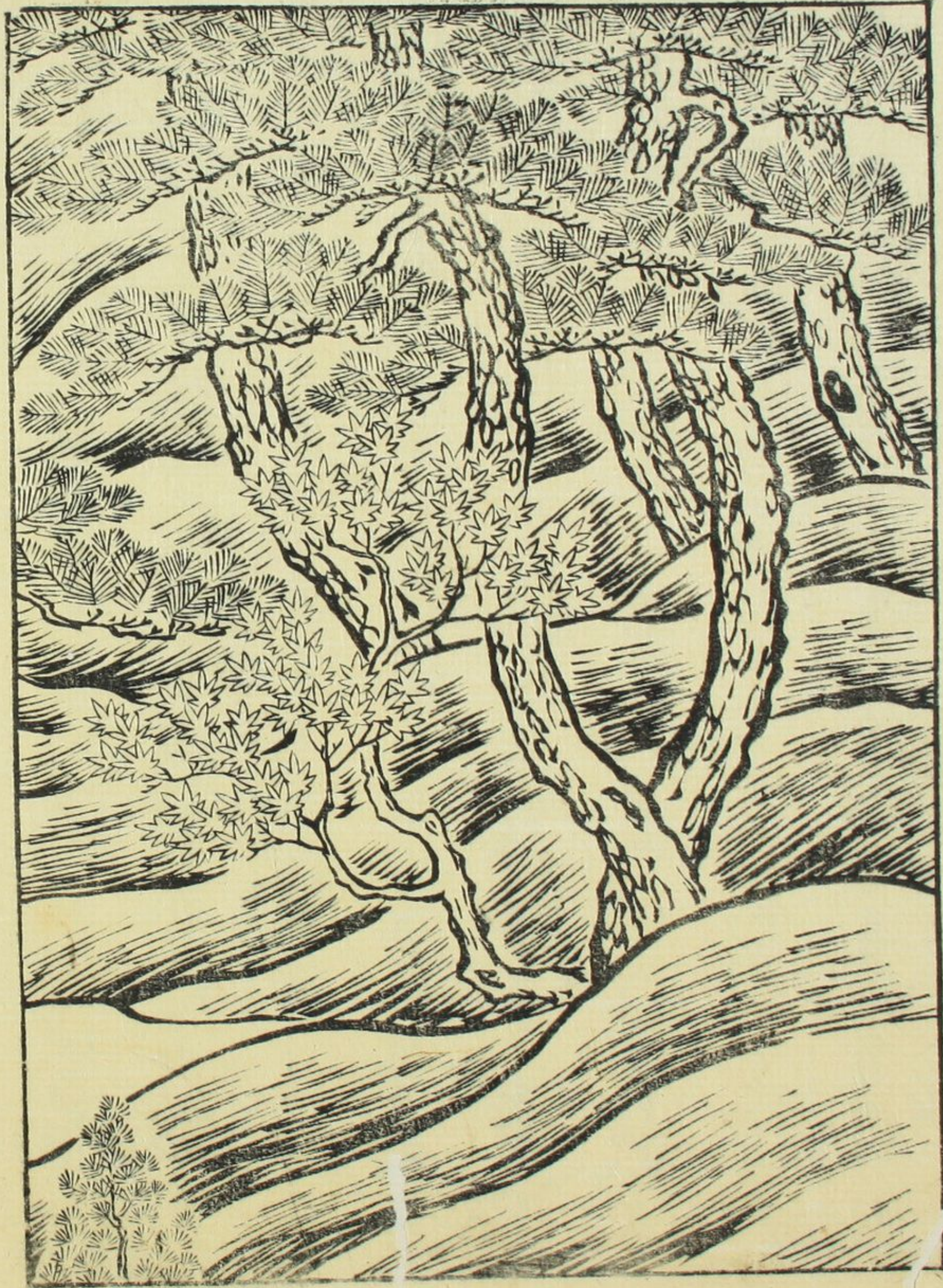
こゝを疑<sup>う</sup>たきよりのよるこび申て東國へ下向  
しに今ら其後上人れにまへよて法蓮房これ  
奉<sup>ま</sup>げ申しつてさるに奉れ傳令るにやと申  
と此をきいぞれ奉たりはら<sup>の</sup>舊<sup>ふる</sup>盗<sup>ぬす</sup>人と聞<sup>き</sup>置<sup>ま</sup>て  
傳しほつて對<sup>たい</sup>機<sup>き</sup>說<sup>せつ</sup>法<sup>ぽう</sup>して傳き一定心得  
たりげよこそえんしつてぞれ傳令る教阿  
ふれ河村りりてりてよと傳令るが<sup>の</sup>お勞<sup>らう</sup>流  
きて終<sup>ま</sup>焉<sup>えん</sup>にのぞこなるるに同<sup>どう</sup>行<sup>ぎょう</sup>よかして

いそくりつ往<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>變<sup>へん</sup>定<sup>ぢやう</sup>たりよまことれらあ  
上人<sup>じやうじん</sup>りをうへ<sup>へ</sup>誠<sup>まこと</sup>信<sup>しん</sup>とるゆへなり往<sup>い</sup>生<sup>じやう</sup>れや  
これら<sup>の</sup>上<sup>じやう</sup>人<sup>じん</sup>よ<sup>よ</sup>系<sup>けい</sup>して申<sup>ま</sup>海<sup>うみ</sup>つと遺<sup>い</sup>言<sup>げん</sup>しつて  
正<sup>しやう</sup>念<sup>ねん</sup>を<sup>を</sup>つ<sup>つ</sup>合<sup>ごう</sup>掌<sup>じやう</sup>こ<sup>こ</sup>は<sup>は</sup>奉<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>高<sup>かう</sup>聲<sup>せい</sup>念<sup>ねん</sup>佛<sup>ぶつ</sup>  
數十<sup>じゆ</sup>遍<sup>べん</sup>ら<sup>ら</sup>め<sup>め</sup>てを<sup>を</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>今<sup>いま</sup>ら<sup>ら</sup>同<sup>どう</sup>行<sup>ぎょう</sup>や<sup>や</sup>と<sup>と</sup>上<sup>じやう</sup>洛<sup>らく</sup>  
して遺<sup>い</sup>言<sup>げん</sup>れ<sup>れ</sup>次<sup>じ</sup>事<sup>じ</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>上<sup>じやう</sup>人<sup>じん</sup>よ<sup>よ</sup>申<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>え<sup>え</sup>し<sup>し</sup>つ<sup>つ</sup>相<sup>あ</sup>違<sup>い</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>  
ら<sup>ら</sup>。あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>奉<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>信<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>こ<sup>こ</sup>なる



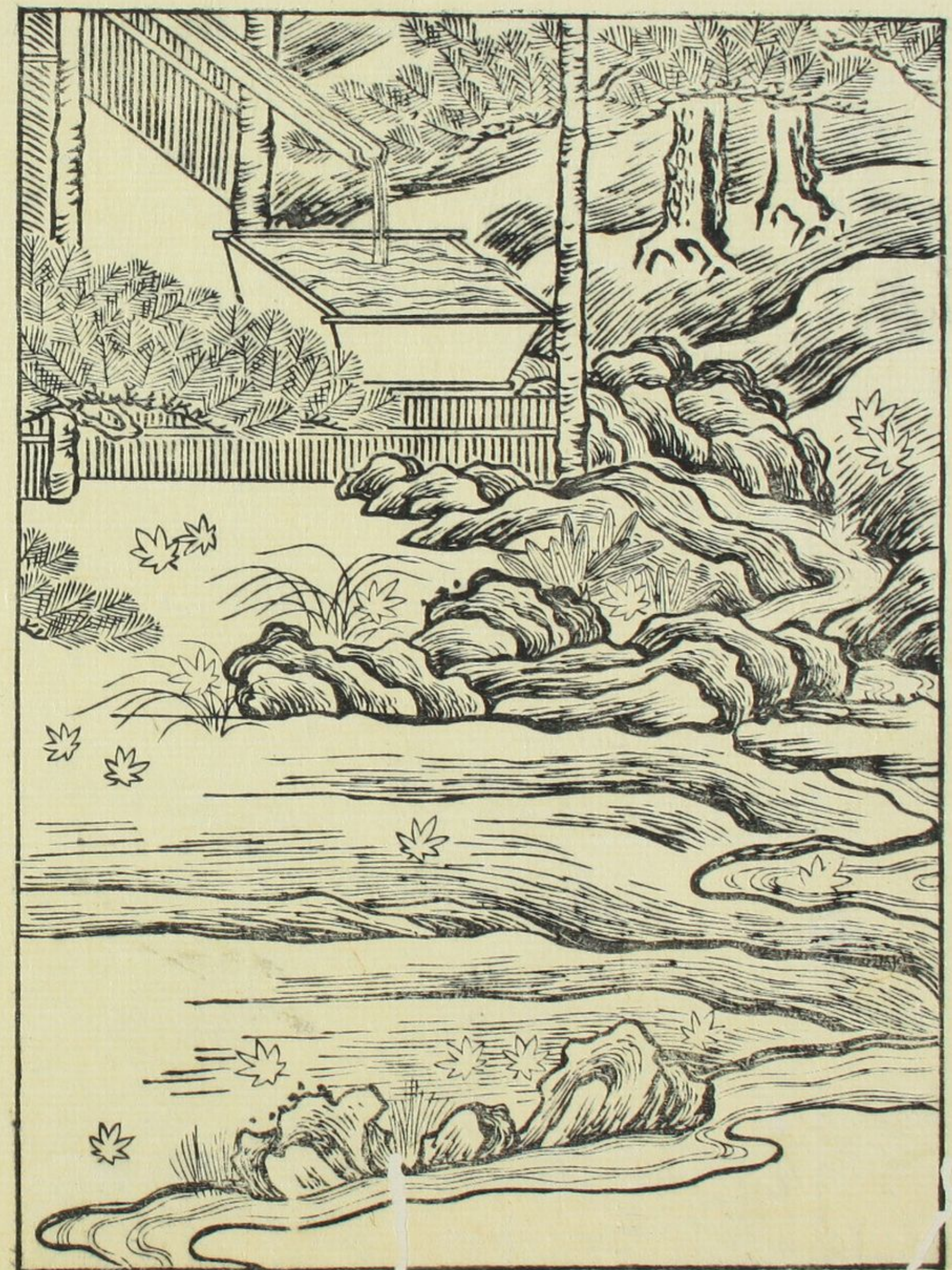


十

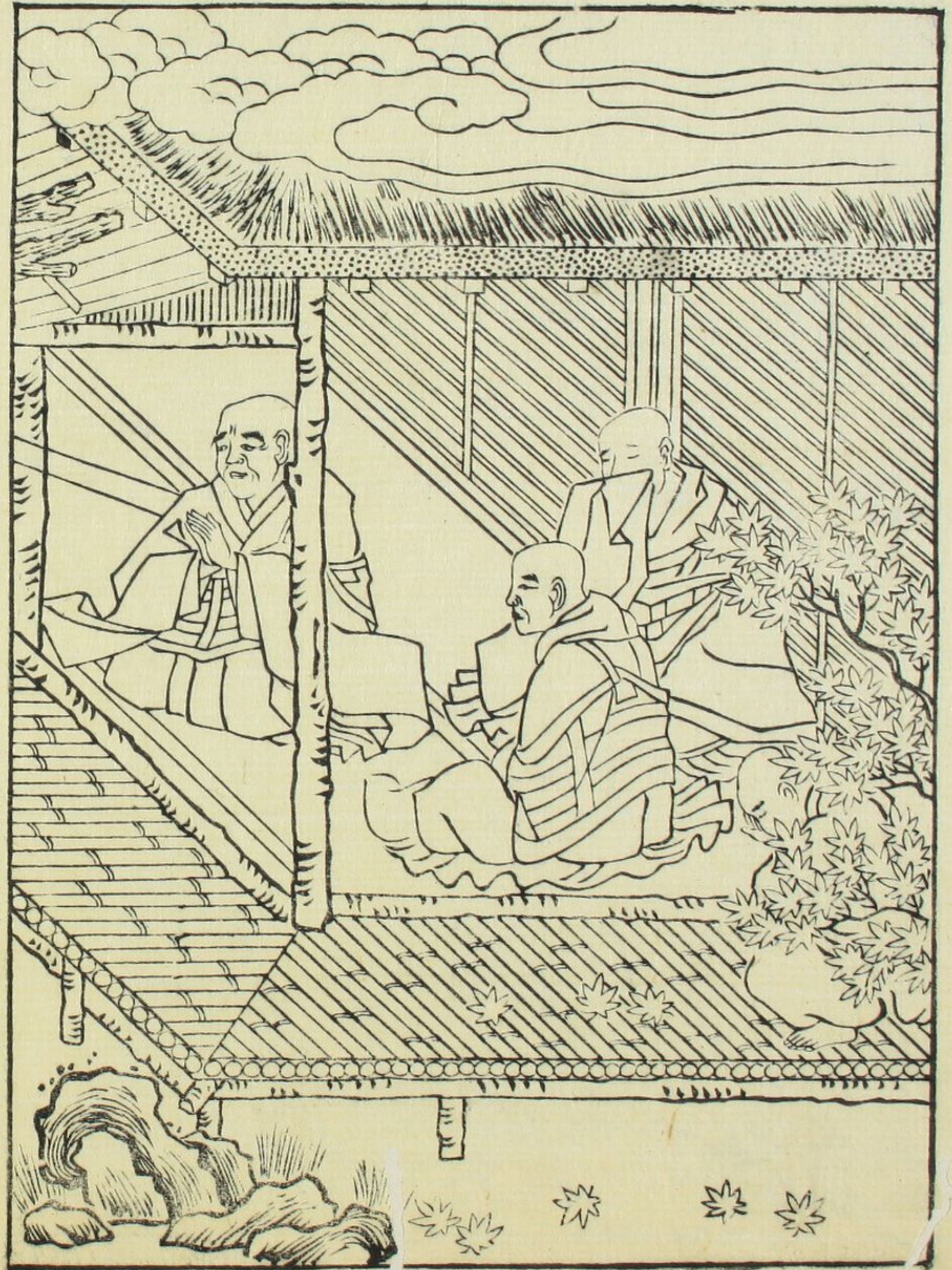
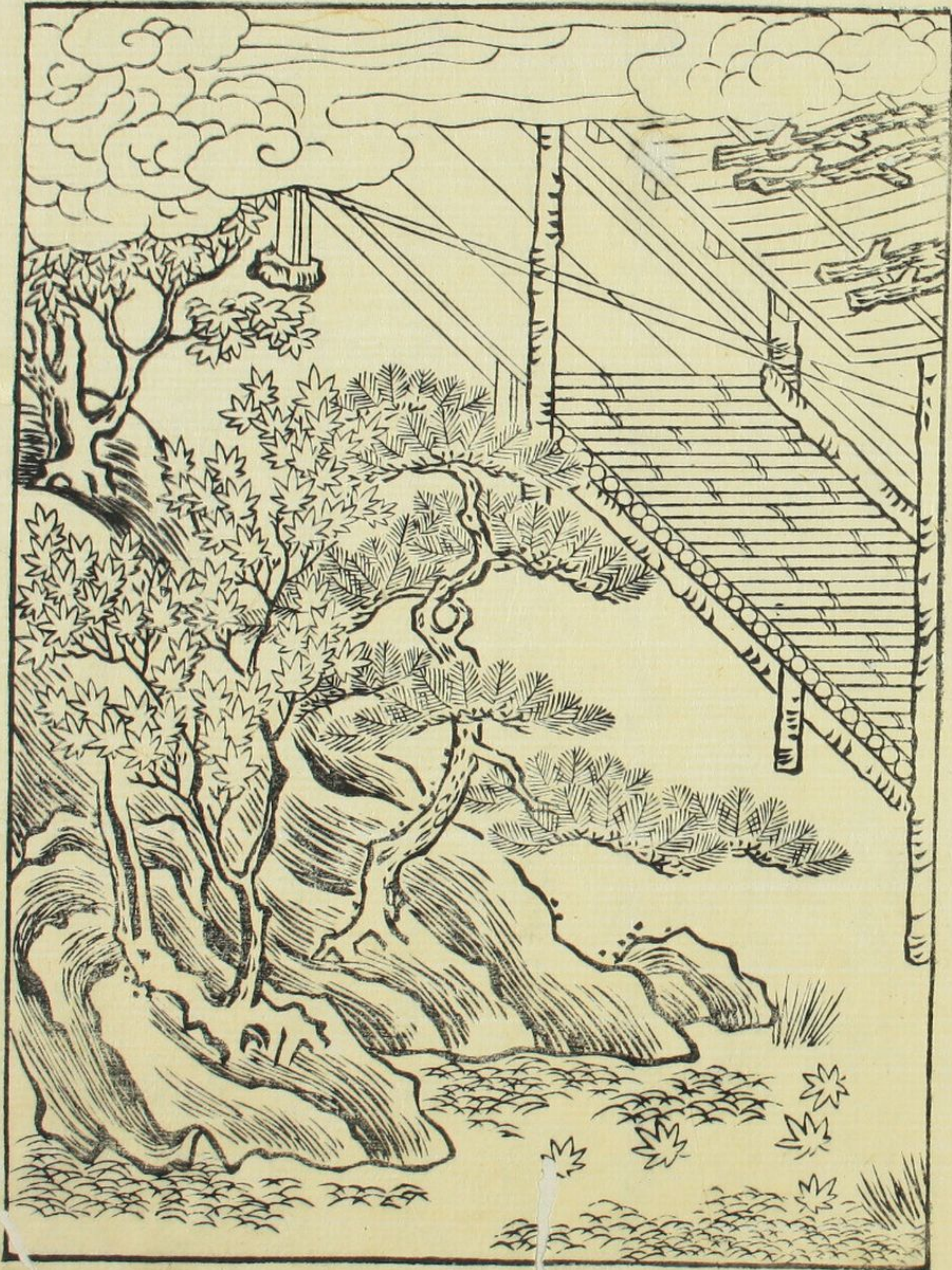


十











沙弥随莲

住四條萬里小路

上人配所へたまひまはる

時いごも申て歸依あさかぬらたま上人を  
あまごころ念佛往生の道を開示し給ふゆ  
信受しつゝ心ゆく念佛しけり上人往生  
此後建保二年たふらいつに念佛とらまを  
問して三心を志しけり上人い往生とべら  
と申まはありまはる随蓮申はる故上人  
念佛へ候たれをまうとすまはるひに佛語を

信よて念佛とれん往生とらまはる  
三心の一は念ふ心はわきまを彼人まは  
いご一切り心よりまをたためよ方便  
して信ふれをたれ上人御素意のたれ  
とて経釋此文をゆゑに申さる  
たれまはるにこそやあまごころ疑心を  
かへしありたまはる夜のゆめに法勝寺に  
西門より入てんたれ池のたれにいろくた蓮



花<sup>げ</sup>さ<sup>ら</sup>に<sup>ぶ</sup>れ<sup>た</sup>ち<sup>西</sup>の<sup>廊</sup>の<sup>う</sup>へ<sup>あ</sup>ゆ<sup>ま</sup>り<sup>わ</sup>て  
え<sup>ま</sup>こ<sup>の</sup>僧<sup>衆</sup>あ<sup>ま</sup>る<sup>列</sup>座<sup>して</sup>淨<sup>土</sup>の<sup>法</sup>門<sup>を</sup>  
談<sup>ぶ</sup>。隨<sup>蓮</sup>さ<sup>は</sup>ら<sup>し</sup>に<sup>の</sup>が<sup>り</sup>あ<sup>ら</sup>わ<sup>く</sup>  
み<sup>ま</sup>こ<sup>の</sup>上<sup>人</sup>北<sup>座</sup>よ<sup>南</sup>じ<sup>ま</sup>の<sup>座</sup>した<sup>ま</sup>り<sup>わ</sup>。  
隨<sup>蓮</sup>見<sup>え</sup>し<sup>て</sup>ま<sup>り</sup>わ<sup>て</sup>か<sup>し</sup>こ<sup>ま</sup>る<sup>り</sup>。上<sup>人</sup>見<sup>え</sup>  
た<sup>ま</sup>り<sup>て</sup>。隨<sup>蓮</sup>さ<sup>は</sup>ら<sup>し</sup>に<sup>の</sup>が<sup>り</sup>あ<sup>ら</sup>わ<sup>く</sup>  
ま<sup>り</sup>わ<sup>ぬ</sup>隨<sup>蓮</sup>さ<sup>は</sup>ら<sup>し</sup>に<sup>の</sup>が<sup>り</sup>あ<sup>ら</sup>わ<sup>く</sup>上<sup>人</sup>  
れ<sup>は</sup>ら<sup>く</sup>汝<sup>も</sup>こ<sup>れ</sup>ほ<sup>ご</sup>ら<sup>し</sup>に<sup>の</sup>が<sup>り</sup>あ<sup>ら</sup>わ<sup>く</sup>。

ゆ<sup>め</sup>く<sup>し</sup>つ<sup>つ</sup>物<sup>べ</sup>く<sup>つ</sup>ゆ<sup>め</sup>と<sup>隨</sup>蓮<sup>こ</sup>の<sup>事</sup>さ<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>  
人<sup>よ</sup>と<sup>申</sup>は<sup>ら</sup>ば<sup>な</sup>ま<sup>り</sup>て<sup>き</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>た</sup>ま<sup>り</sup>よ<sup>し</sup>  
か<sup>と</sup>思<sup>ひ</sup>な<sup>ま</sup>る<sup>上</sup>作<sup>の</sup>や<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>申<sup>す</sup>り。  
上<sup>人</sup>は<sup>ら</sup>わ<sup>り</sup>て<sup>い</sup>く<sup>た</sup>く<sup>ん</sup>ひ<sup>が</sup>を<sup>い</sup>ぬ<sup>も</sup>れ<sup>て</sup>。  
あ<sup>れ</sup>池<sup>の</sup>蓮<sup>華</sup>蓮<sup>華</sup>に<sup>い</sup>あ<sup>る</sup>は<sup>ら</sup>梅<sup>を</sup>搦<sup>と</sup>と。  
い<sup>く</sup>信<sup>と</sup>へ<sup>や</sup>と<sup>隨</sup>蓮<sup>申</sup>て<sup>云</sup>現<sup>に</sup>蓮<sup>花</sup>  
よ<sup>て</sup>汝<sup>を</sup>ば<sup>い</sup>く<sup>人</sup>申<sup>は</sup>ら<sup>ば</sup>い<sup>く</sup>信<sup>と</sup>  
汝<sup>も</sup>や<sup>と</sup>上<sup>人</sup>の<sup>孫</sup>く<sup>念</sup>佛<sup>の</sup>義<sup>を</sup>又<sup>く</sup>れ

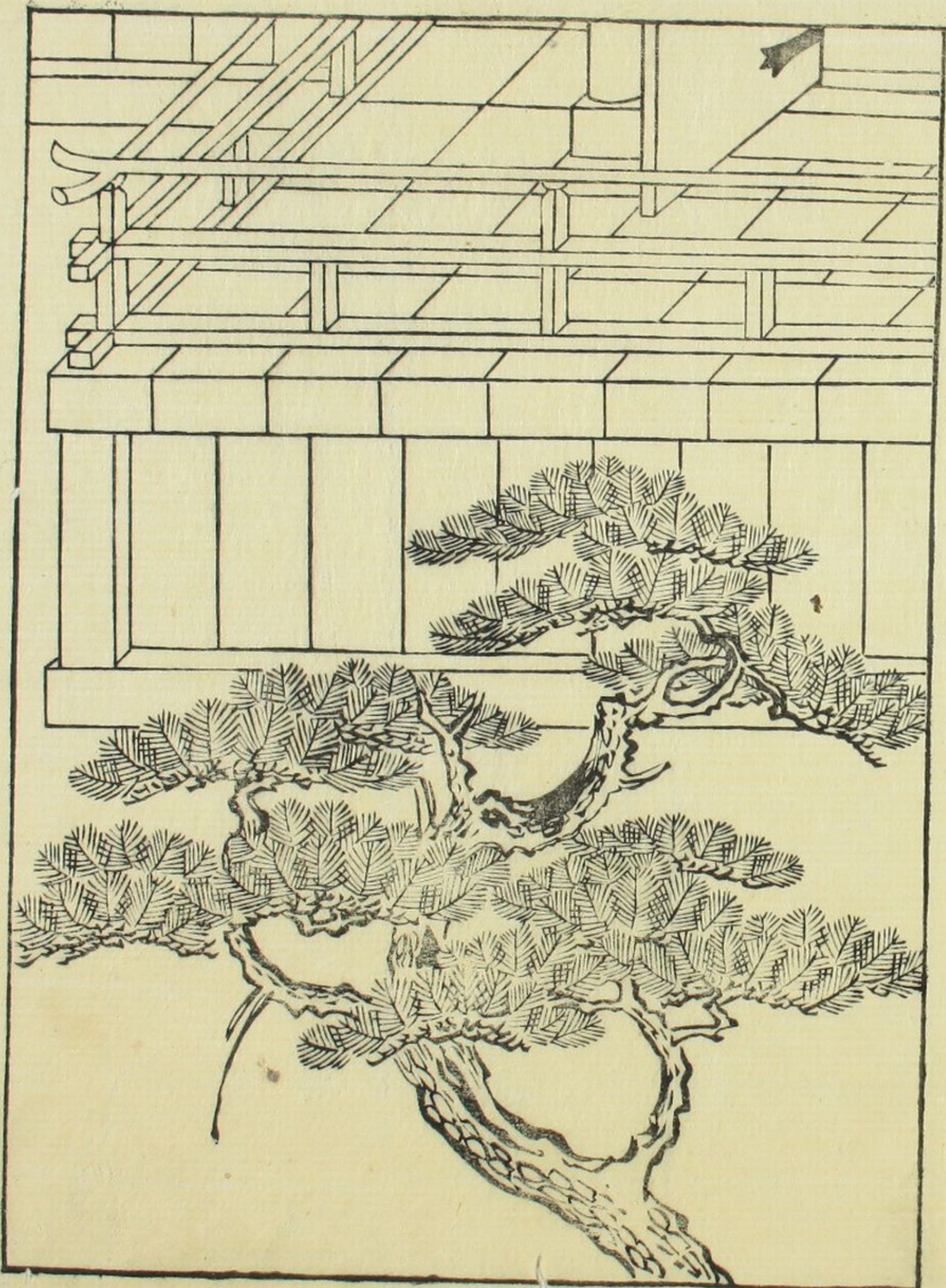


し。源宣り。汝よ念佛して往生する事し  
変定して疑<sup>う</sup>なりとを<sup>し</sup>へ<sup>し</sup>。疑信したる蓮  
華城蓮華とを<sup>し</sup>へ<sup>し</sup>。好く信してさら  
やれ沙汰よ及<sup>し</sup>。汝よく念佛を申す事なり。あな  
邪見<sup>よ</sup>の極梅の義を<sup>し</sup>は。ゆゑよく信してさら  
と信<sup>し</sup>。家と見<sup>し</sup>。く<sup>し</sup>。い<sup>し</sup>。め<sup>し</sup>。ら<sup>し</sup>。え<sup>し</sup>。ぬ<sup>し</sup>。随<sup>し</sup>。蓮<sup>し</sup>。疑<sup>し</sup>。念<sup>し</sup>。の  
こ<sup>し</sup>。わ<sup>し</sup>。れ<sup>し</sup>。く<sup>し</sup>。散<sup>し</sup>。に<sup>し</sup>。な<sup>し</sup>。り。念<sup>し</sup>。佛<sup>し</sup>。切<sup>し</sup>。法<sup>し</sup>。を<sup>し</sup>。り。臨<sup>し</sup>。終<sup>し</sup>。正<sup>し</sup>。念<sup>し</sup>。  
りして。往生<sup>し</sup>。れ<sup>し</sup>。素<sup>し</sup>。懐<sup>し</sup>。を<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。け<sup>し</sup>。よ<sup>し</sup>。を<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。わ<sup>し</sup>。ん

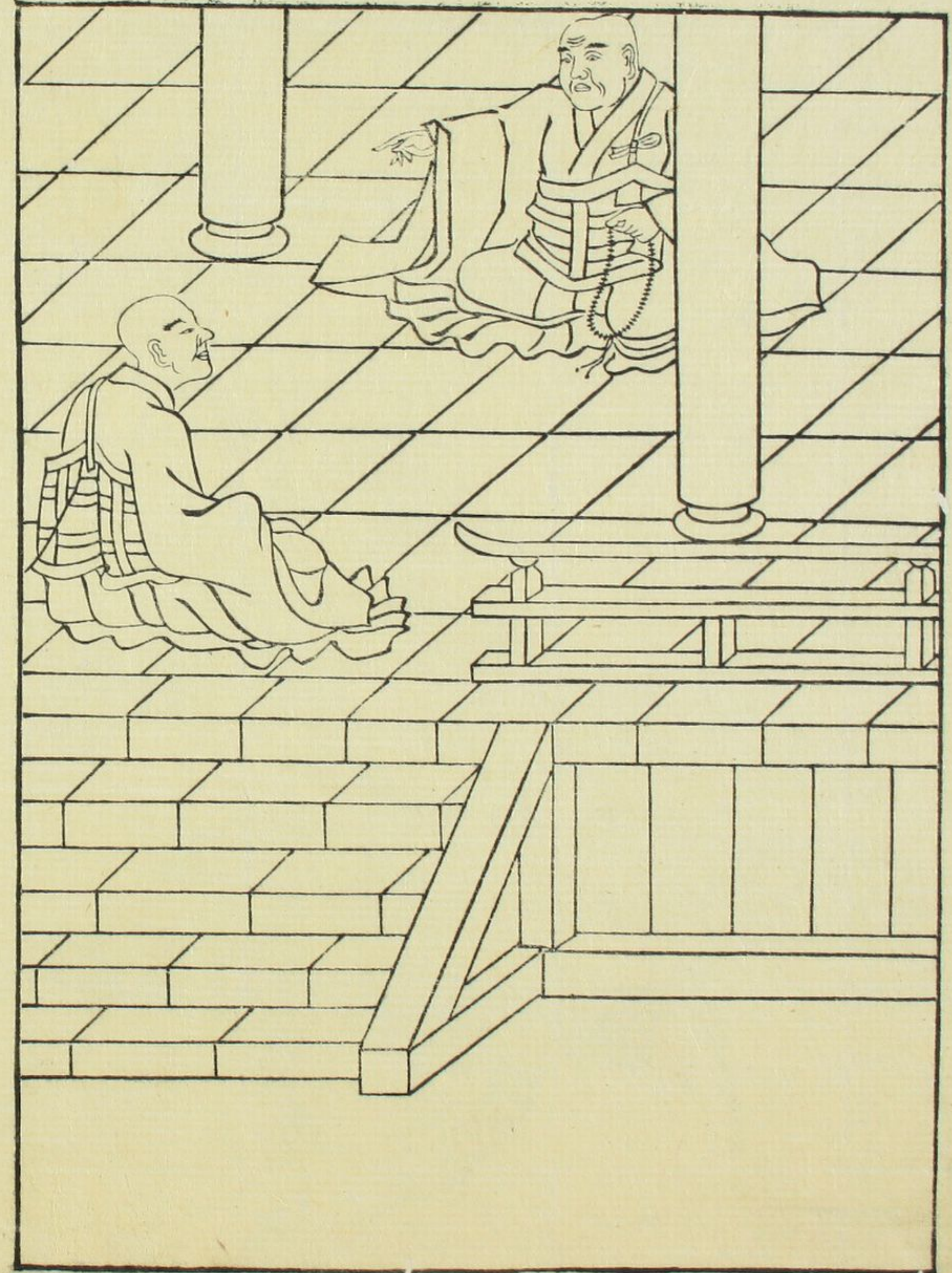
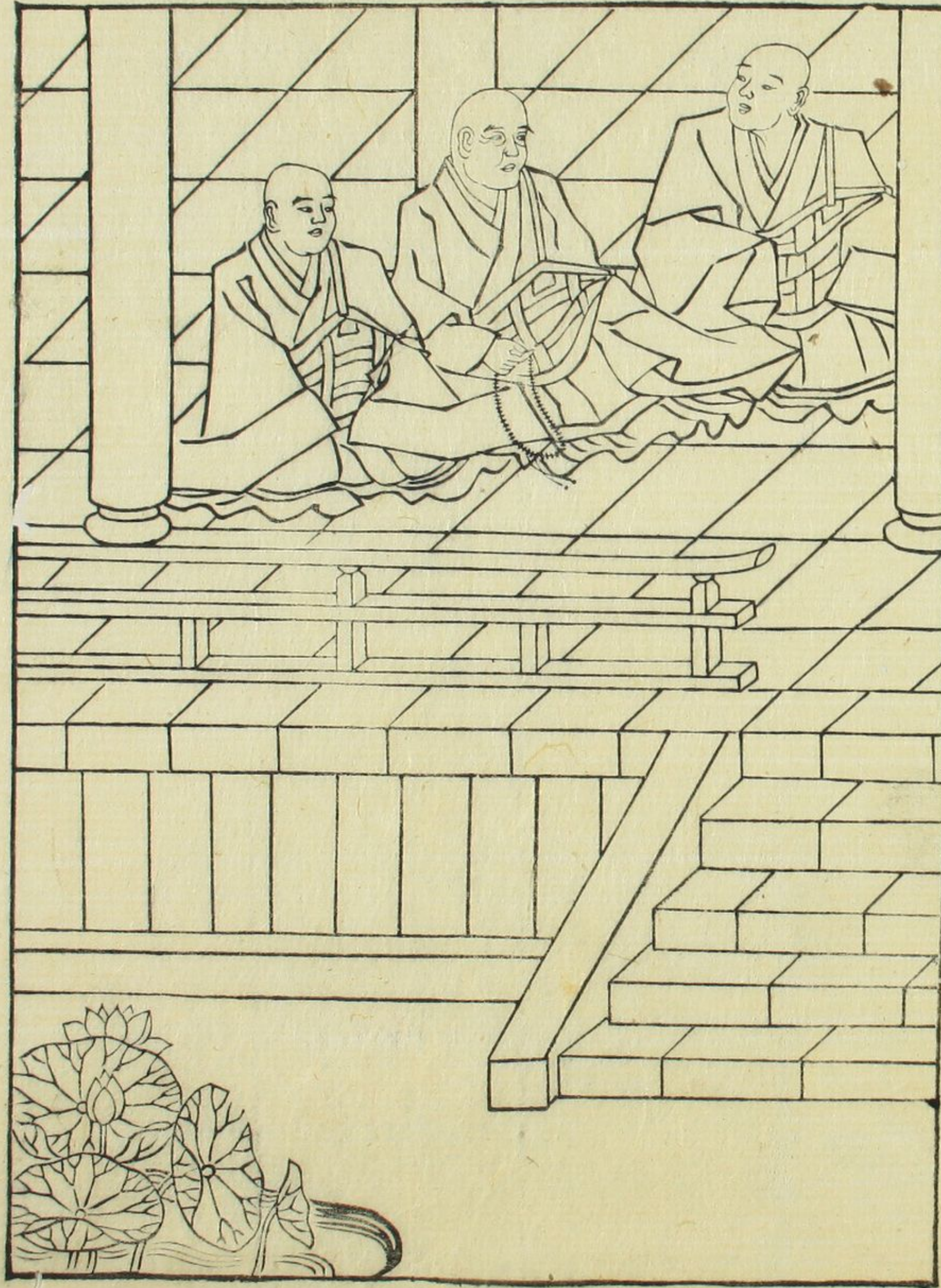
持上人あ<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。ろ<sup>し</sup>。よ<sup>し</sup>。は<sup>し</sup>。三<sup>し</sup>。心<sup>し</sup>。れ<sup>し</sup>。も<sup>し</sup>。う<sup>し</sup>。候<sup>し</sup>。を<sup>し</sup>。り<sup>し</sup>。  
な<sup>し</sup>。し<sup>し</sup>。あ<sup>し</sup>。の<sup>し</sup>。あ<sup>し</sup>。よ<sup>し</sup>。三<sup>し</sup>。心<sup>し</sup>。れ<sup>し</sup>。沙<sup>し</sup>。汰<sup>し</sup>。詮<sup>し</sup>。を<sup>し</sup>。り<sup>し</sup>。信<sup>し</sup>。れ<sup>し</sup>。  
あ<sup>し</sup>。ら<sup>し</sup>。い<sup>し</sup>。れ<sup>し</sup>。人<sup>し</sup>。よ<sup>し</sup>。も<sup>し</sup>。く<sup>し</sup>。ま<sup>し</sup>。事<sup>し</sup>。好<sup>し</sup>。り。名<sup>し</sup>。号<sup>し</sup>。候<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。な<sup>し</sup>。り<sup>し</sup>。  
ま<sup>し</sup>。ん<sup>し</sup>。の<sup>し</sup>。好<sup>し</sup>。し<sup>し</sup>。信<sup>し</sup>。生<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。あ<sup>し</sup>。ら<sup>し</sup>。ま<sup>し</sup>。え<sup>し</sup>。や<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。あ<sup>し</sup>。  
ま<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。な<sup>し</sup>。り<sup>し</sup>。我<sup>し</sup>。の<sup>し</sup>。あ<sup>し</sup>。の<sup>し</sup>。人<sup>し</sup>。の<sup>し</sup>。あ<sup>し</sup>。の<sup>し</sup>。つ<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。な<sup>し</sup>。り<sup>し</sup>。  
ま<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。れ<sup>し</sup>。ら<sup>し</sup>。あ<sup>し</sup>。ら<sup>し</sup>。を<sup>し</sup>。申<sup>し</sup>。く<sup>し</sup>。よ<sup>し</sup>。三<sup>し</sup>。心<sup>し</sup>。を<sup>し</sup>。し<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。ら<sup>し</sup>。  
し<sup>し</sup>。く<sup>し</sup>。申<sup>し</sup>。な<sup>し</sup>。す<sup>し</sup>。ほ<sup>し</sup>。と<sup>し</sup>。し<sup>し</sup>。く<sup>し</sup>。あ<sup>し</sup>。て<sup>し</sup>。信<sup>し</sup>。を<sup>し</sup>。な<sup>し</sup>。り<sup>し</sup>。候<sup>し</sup>。も<sup>し</sup>。  
は<sup>し</sup>。な<sup>し</sup>。り<sup>し</sup>。が<sup>し</sup>。衆<sup>し</sup>。人<sup>し</sup>。の<sup>し</sup>。た<sup>し</sup>。ら<sup>し</sup>。よ<sup>し</sup>。三<sup>し</sup>。心<sup>し</sup>。れ<sup>し</sup>。沙<sup>し</sup>。汰<sup>し</sup>。無<sup>し</sup>。益<sup>し</sup>。の



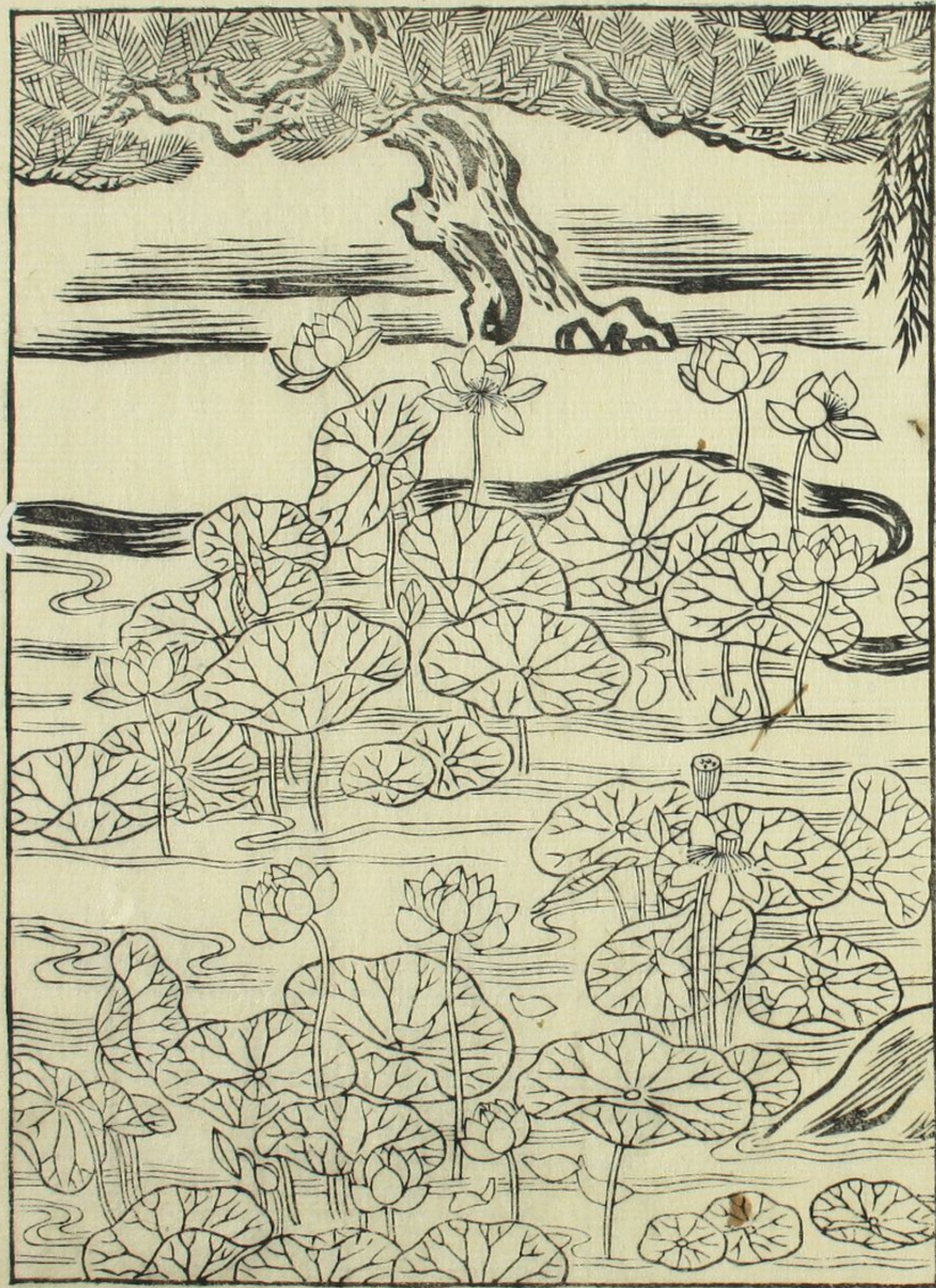
事なるべし。一日来いふべし。の心もあつて  
 三の具勢ぬ人も。聖教を學ぶれど道理よ  
 なるて三心のおこす事もある。はたしな人  
 人のためよは三心れ様を志す人。大切なる  
 心を一向よこれれを非ず。又そのさあ。あり。  
 これらら心えれ。上人兩様れ御勸進。は  
 我よ相違を成と。べし。いふ。め。なり。













遠江國久野の作佛房といひ山即い役行者此跡を  
をこひ。山林斗敷の行をたてて。大峯を經歷し。  
熊野系詣のめゆと伝へて。妙事四十八箇度也。たび  
ごとく證誠權現の寶前にひきまげま。とれららに  
現世此果報をいのつ。後福のつゝの出離此要道を  
志せり。終へとらひをたて。四十八度満じ。時當時  
京都よ法然房といひ。志りあり。ゆきて出離の  
道をたづぬ。ととらひ。終り此い。とれら

上洛して上人よ。謁し。ちてまつり。念佛往生此  
教導にあつたり。一向専修此行者となりよ。多里。  
本國よ。とらひてい。とらひ。市中にいで。漆物おと  
や。れ。を。お。を。賣。買。して。今。成。ゆ。く。ら。り。し  
たり。り。や。よ。り。孤。獨。の。身。な。れ。い。同。行。を。れ。く。知。識。を  
た。り。病。を。う。け。ま。さ。ん。病。惱。の。く。ま。り。ま。た。く。療  
治。の。ま。つ。し。ひ。た。り。往。生。此。期。い。ら。り。て。道。場。よ。い。り。  
佛。前。よ。し。く。ま。ら。る。れ。こ。ひ。を。う。ら。高。聲。念。佛。數。尅







いのひとも。げんじよ。はやくす。ごうく。本願れ  
 意に。い。た。ひ。て。お。れ。ら。の。順。次。の。往。生。を。と。ぐ  
 た。ど。ぞ。申。は。し。へ。侍。る。九。品。乃。鳥。居。を。た。て。ら。れ  
 ち。し。し。九。品。の。浄。土。よ。引。接。れ。御。本。意。を。表。し。と。と  
 じ。り。系。諸。人。内。り。本。地。の。本。願。を。た。の。外。に  
 乘。迹。乃。擁。護。を。あ。ま。さ。て。お。も。ひ。と。へ。り。順。次  
 往。生。れ。心。を。は。ら。れ。ら。し。侍。る。つ。ま。も。の。を。也

